

平成 23 年度

# 研 究 紀 要

(通卷第 29 号)



川 越 市 教 育 委 員 会

# あいさつ

川越市教育委員会教育長 新井 孝次

川越市教育委員会では、本年度も市内各学校の先生方を研究委員として、「情報教育推進委員会」、「学力調査研究委員会」、「教育に関する3つの達成目標推進研究委員会」、「小学校外国語活動研究委員会」の4つの研究委員会の研究成果をまとめた「研究紀要第29号」を刊行いたします。

各委員会の委員長である校長先生をはじめ、調査・研究に御協力くださいました委員の先生方の御尽力に感謝申し上げます。

さて、現在の学校教育を取り巻く環境は益々厳しい状況にあります。今後も社会状況の変化を的確に捉え、次代を担う川越市の児童生徒に「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」の知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むことがより一層重要でございます。

川越市教育委員会では、平成23年2月に川越市総合計画後期基本計画にもとづき、川越市教育振興基本計画「生きる力と学びを育む川越市の教育」を策定し、次代を担いたくましく生きる児童生徒を育成するために、教育センターを中心に経験や職能に応じた研修を実施し、教職員の資質の向上を図っております。

こうした中、本冊子は、各委員会の委員長を中心として、調査・研究、授業実践の成果と課題をまとめたものです。各分野において、本市の実態を調査・分析・考察して得られた、指導方法の工夫・改善を図るための取組や、学校・家庭・地域がさらに連携を深めていくための方策などを掲載いたしました。

各学校におきましては、自校の学校課題に適切に対応し、特色ある学校の創造を目ざし、「生きる力」の育成に鋭意努力していただいているところでございますが、自校の子どもたちの実態を踏まえ、有効適切に本冊子を活用されることを御期待申し上げ、あいさつといたします。

# 目 次

## 情報教育推進委員会

1 研究の概要	1
2 各部会の取組	2
(1) 授業研究部会	
(2) 情報収集部会	9

## 学力調査研究委員会

1 研究の概要	13
2 各教科の総括	
(1) 国語科	14
(2) 社会科	17
(3) 算数・数学科	20
(4) 理科	24
(5) 英語科	27

## 教育に関する3つの達成目標推進研究委員会

1 研究の概要	29
2 現状と課題	
3 各部会の取組	
【読む・書く部会】	30
【計算部会】	36
【規律ある態度部会】	39
【体力部会】	42

## 小学校外国語活動研究委員会

1 研究の概要	45
2 調査結果	
平成23年度「英語活動」意識調査 小学校	46

委員名簿	50
------	----

# 情報教育推進委員会

## 1 研究の概要

### (1) 目的

全市立小・中学校の情報教育の一層の推進を目指し、児童生徒の学力や情報活用能力の育成を図るための教育の情報化についての現在の課題解決に向けた実践研究を行う。

### (2) 研究テーマ

「授業におけるICT活用指導力の向上」～デジタル教科書等の活用を通して～

### (3) 研究方針

デジタル教科書の導入・設定、及び授業での活用方法のマニュアル化を通し、市全体の情報教育の推進を図る。

### (4) 研究内容

- ・情報機器を活用し、情報活用能力を高める授業研究を行う。
- ・授業に使えるデジタルコンテンツ及び校務の効率化を図るためのデータの作成及び収集をし、各学校に配布する。

### (5) 研究の経過

- ① 第1回 7月12日(火) 15:30～16:30 教育センター
  - ・委嘱書交付
  - ・川越市情報教育の現状と課題、今年度の方針、今後の予定
- ② 第2回 8月29日(月) 14:00～16:30 教育センター
  - ・授業内容の検討(教科、単元名、活用場面等)
  - ・デジタル教科書の導入方法のマニュアル・作成分担
  - ・操作方法、授業での活用方法のマニュアル
- ③ 第3回 各研究部ごとに実施
  - ア 授業研究部 10月5日(水) 15:15～16:30 教育センター
    - ・学習指導案検討
    - ・授業研究会準備
  - イ 情報収集部 9月20日(火) 15:15～16:30 教育センター
    - ・デジタル教科書の導入方法のマニュアル作成・修正
    - ・操作方法、授業での活用方法のマニュアル作成・修正
- ④ 第4回 授業研究会
  - ・日時 11月8日(火)
  - ・場所 川越市立新宿小学校
  - ・学年・教科 第1学年 国語科
  - ・単元名 「じどうしゃしらべ」
  - ・授業者 川越市立新宿小学校 島田 亮 教諭
- ⑤ 第5回 2月14日(火) 15:15～16:30 教育センター
  - ・委員会のまとめ

## 2 各部会の取組

### (1) 授業研究部会

#### ① 指導案

## 第1学年3組 国語科学習指導案

平成23年11月8日(火) 第5校時

男子16名 女子13名 計29名

授業者 島田 亮

### 1 単元名・教材名 くらべてよもう「じどう車くらべ」

### 2 児童の思いや願いと本単元の意図

本学級の児童は、明るく活発で意欲的に学習に取り組む児童が多い。アンケートを取ると、85%の児童が国語を好きと答えている。また、休み時間には図書室に行く児童も多く、クラスの80%の児童が小江戸読書マラソンカードを完走した。種類は絵本や物語を好む児童が多く、図鑑などの説明文には慣れていない現状がある。しかし、10月に学習した「みいつけた」の単元では、児童の興味・関心の高い虫を扱った単元であったため、進んで読み取りをしていた。また、様々な虫を調べるために、進んで図書館で図鑑を借りる児童も見られるようになり、興味・関心の広がりを感じる。しかし、そのおもしろいと思ったことなどを相手に伝えたい時に、大事な言葉が抜けていたり、順序がまとまらなかったりするために、うまく相手に伝えられない場面が見られ、課題として捉えている。

児童が興味・関心を示す物の一つに乗り物がある。本単元の「じどう車くらべ」は、なかでも特に身近な自動車を取り上げており、説明的文章でも取り組みやすくなっている。6月に学習した「くちばし」では、「問い+答え」の繰り返しで構成された文章だった。本単元は、10月に学習した「みいつけた」と同様、「問い+答え+答え+答え」という列挙型の構成になっている説明文である。各ページに登場する車が、「どんな仕事をするのか」、そのために「どんなつくりになっているのか」という二つの関係性を学習する。「(しごと)をするための(つくり)」という事柄の順序に沿うために、「そのために」という語句を意識して指導する。また、学習指導要領「C読むこと(1)エ」の、自分の考えをまとめるために、文章の中で大事になる言葉や文を書き抜く活動は、本学級の課題解決のための大切な活動であると考え。さらに、学習指導要領「B書くこと(2)ウ」の、学習した文面を使い、色々な車の図鑑を作る活動を通して理解を深めたい。

学習においてデジタル教科書は、児童の学習支援・発展において役立つと考える。「みいつけた」の単元では、虫のみつけ方を知るために、「どこにいるか」、「とくちょう」、「どうすればつかまえられるか」を教科書に色分けをして線を引いて確かめた。その際、教科書のどこに何色の線を引くか分からなくなる児童がいたが、デジタル教科書を活用したことによって、黒板のスクリーンの教科書と一緒に引くことができ、児童の学習支援に大いに役立った。児童からもスクリーンに教科書があると分かりやすいという声が多数あり、その支援性の高さを実感した。

また、身近な車が題材だが、クレーン車などは実際に見た事がない児童もいるので、より身近に感じられるように映像を提示して理解を深めることができると考える。子どもたちの理解を図るために、デジタル教科書を効果的に活用していきたいと考える。

### 3 単元の目標

- (1) いろいろなじどう車の「しごと」と「つくり」に関する文章に興味を持って読もうとしている。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、句読点を使ってつながりのある文章を書くことができる。  
(書くこと)
- (3) 知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。  
(読むこと)
- (4) 片仮名で長音、拗音、促音、撥音を表記することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・いろいろなじどう車の「しごと」と「つくり」に関する文章に興味を持って読もうとしている。	・事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、句読点を使ってつながりのある文章を書いている。	・知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜いている。	・片仮名で長音、拗音、促音、撥音を表記している。
学習活動に即した評価規準	①知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、事物の仕組みなどについて説明した本や文章を選んで読もうとしている。 ②自分の身近にあるお気に入りの物の特徴をつかみ、それを読み手にも伝えたいという願いをもって書くとしている。	①伝えたい物の特徴や動きなどが伝わるように、語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書いている。	①文章の内容の大体を讀んで、自分の経験とを結び付けて、自分の思いを発表している。 ②各車に関する情報を得るために、事物の仕組みなどがなぜそうなっているのかを文章から見付けながら読み、書き抜いている。 ③図鑑を書くために必要な知識を得るため、事物の仕組みなどについて説明した本や文章を、図や写真などに着目して選んで読んでいる。	①のばす音（長音）、ねじれる音（拗音）、つまる音（促音）、はねる音（撥音）の表記ができ、文の中で使っている。

5 指導と評価の計画（全12時間） 本時4 / 12時

	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○どんなじどう車があるか話し合う。 ○教師の範読を聞き、分かったことなどを発表する。 ○じどう車図鑑を作る見通しをもつ。 ○全員で音読する。	○単元の学習の進め方 ○句読点に気を付けた音読	アの①エの① ・話し合いの様子や態度の観察
2 3 4 5	○それぞれのじどう車の「しごと」と「つくり」を確かめ、ワークシートにまとめる。 ④・バスとじょうよう車 5・トラック ・クレーン車 ・はしご車	○事柄の順序や様子に気を付けた読み方 ・しごと「そのために」つくり ○片仮名の書き方の復習	エの②オの① ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・ワークシートの記述
6 7 8 9 10 11 12	○絵本や図鑑を読み、書きたいじどう車を選ぶ。 ○書きたいじどう車のしごととつくりを調べる。 ○下書きする。 ○下書きを消書きし、絵を描く。 ○友達と交換して読み合い、感想を書く。	○好きなじどう車の図鑑の書き方 ・しごと「そのために」つくり ○図鑑をみんなで読み合い、感想をカードに記入	アの②エの③ ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・図鑑、カードの記述内容の考察 ウの①オの① ・図鑑の記述内容の考察

6 本時の学習指導（4／12）

(1) 目標

クレーン車の「しごと」と「つくり」をとらえることができる。

(2) 評価規準

- ・各車に関する情報を得るために、事物の仕組みなどがなぜそうなっているのかを文章から見付けながら読み、書き抜いている。（読む能力②）
- ・のぼす音（長音）、ねじれる音（拗音）、つまる音（促音）、はねる音（撥音）の表記ができ、文の中で使っている。（言語についての知識・理解・技能①）

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 片仮名の復習をする。	○「ク」「レ」「ー」「ン」の書き方の確認	・国語ノートに既習事項を確認する。	7分
2 本時の課題を知る。	○写真を見て、本時で学習する車を確認  クレーン車の「しごと」と「つくり」をみつけよう。	・前時の学習を想起させながら、本時の学習課題をつかませる。	25分
3 P. 25を全員で音読する。	○句読点や片仮名に注意した、明確な音読	・声の大きさに注意して読む。	
4 「しごと」と「つくり」の叙述を色分けする。	○クレーン車のしごと ・おもいものをつり上げるしごと  ○クレーン車のつくり ・じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするように、つくってあります。 ・車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついています。	・クレーン車の「しごと」の部分に赤鉛筆で線を引く。 ・「そのために」という言葉に着目させ、しごととつくりには関係があること、この言葉がしごととつくりをつなぐ役割であることを、前時の学習を想起させながら理解させる。 ・クレーン車の「つくり」の部分に青鉛筆で線を引く。 ・黒板ではデジタル教科書の「うで」と「あし」を囲んで、場所や特徴を確認する。 ・「おもいもの」「つり上げる」に関連する言葉を考えさせ、理解を深める。 ・「うで」と「あし」の様子や働きを確認する。	
5 クレーン車の「うで」と「あし」を確認する。	○ビデオ映像での確認		
6 「しごと」と「つくり」をワークシートに書く。	○クレーン車の「しごと」と「つくり」の確認 <b>しごと</b> ・おもいものをつり上げるしごと  <b>つくり</b> ・じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするように、つくってあります。 ・車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついています。	<b>評価場面</b> 〈学習活動に即した評価規準〉 エの②オの① 〈評価方法〉 ・学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ・ワークシートの記述 〈手立て〉 ・しごととつくりを文章から適切に書き抜いていない児童には、机間指導で一緒に確認し、赤、青鉛筆で引い	8分

7 音読をする。	○しごととつくりを役割読み	<p>た箇所を参考にするよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>しごととつくりを文章から適切に書き抜いている児童には、そこから感じたことや思ったことを考えるよう促す。</li> <li>丁寧に書いている児童を称賛し、はね・はらい・とめなどをさらに意識するよう促す。</li> </ul> <p>しごととつくりを分けて音読をする。</p>	
8 学習のふりかえりをする。	○本時の学習の振り返り		5分
9 次回の予告をする。	○次時への見通し		

(4) 板書計画

おもいもの・・・じょうぶなうで  
しつかりしたあし  
つりあげる・・・のびたりうごいたりする

デジタル教科書スクリーン

じどう車くわへ

クレーン車の「しごと」と「つくり」をみつけよう。

どんなしごとをしていますか。

そのために

どんなつくりになっていますか。

(5) ワークシート

クレーン車の「しごと」と「つくり」をみつけよう。


しごと

つくり①

つくり②

しごと

つくり



じどう車くわへ

クレーン車の「しごと」と「つくり」をみつけよう。

しごと

つくり

クレーン車の「しごと」と「つくり」をみつけよう。

しごと

つくり



## ② 研究協議会

### ア 授業者の取組

- ・デジタル教科書の活用は、2学期から順次活用を図っている。
- ・興味関心など意欲の向上や視覚的な支援性の高さがある。
- ・色分けは難しかったが、見本が前にあるのでやりやすい。
- ・資料が豊富にある。→朗読やワークシートなどもあるのでもっと見つけて生かしていきたい。
- ・本時については、ビデオが面白かった。児童の興味関心だけでなく理解につなげたい。しかし関心の高まりは感じた。
- ・全部画面だけではなく普段の中に自然に溶け込めるようにしていきたい。
- ・ワークシートは今までマス目だったが、今日から空欄にした。

→難しかったが色分けした教科書を頼りにめあてにせまることができた。

- ・書く時間が短く、音読もできなかつたのが残念。

### イ 質疑・応答

- ・国語のめあてに沿っていて良かった。
- ・使い方がすごく上達しているがどのくらい使って慣れたのか？

→2学期から週二日くらい。準備に時間がかかり課題はあるが、慣れると簡単である。

- ・デジカメは使っているのか？

→あまり使っていない。ビデオも今回が初めてだったので興奮してしまった。

- ・子どもの使用は？

→前時や前単元などでも子どもに見せて慣れさせていた。

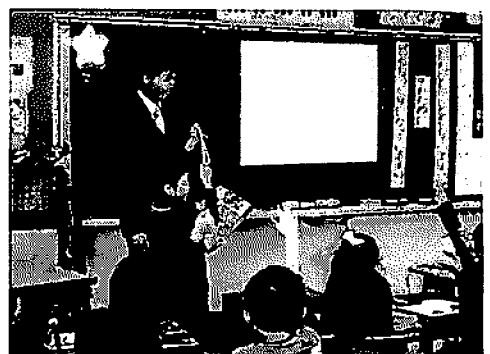
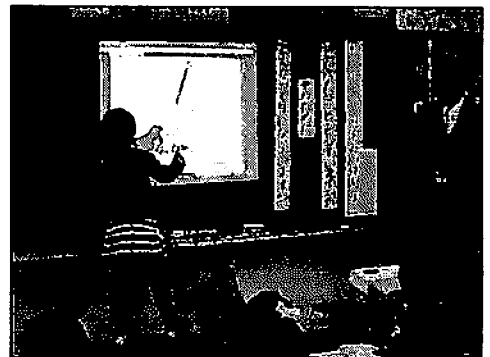
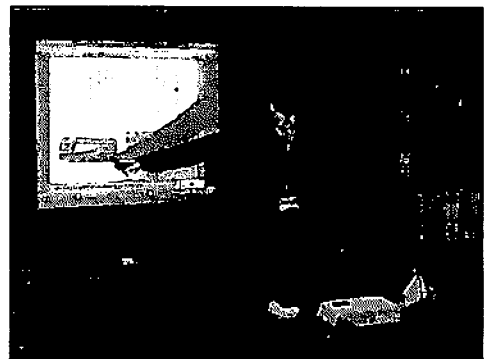
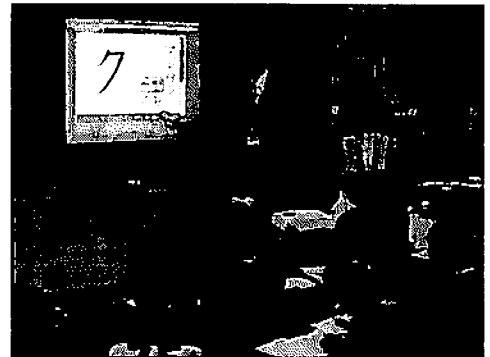
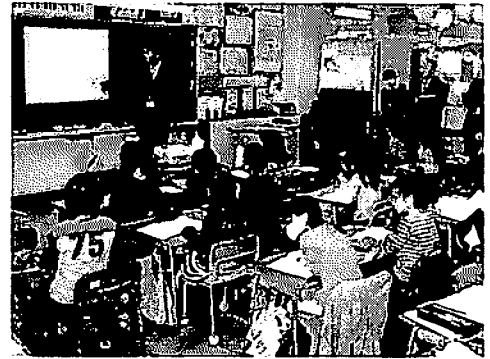
### ウ グループ協議

#### <協議題

授業におけるデジタル教科書の活用について>

#### Aグループ

国語のめあてに合っていた。機器ありきではなくて良かった。前時の振り返りで板書が残るのがいい。使い方が慣れていて、落ち着いていて良かった。子どもと同じものが黒板にあるのがいい。前時



のライン引きが生きているから、今日は、自然だったのではないか。機器は、慣れれば落ち着く。

#### Bグループ

効果的な点は、デジタル教科書は教科書そのものなので、どこに何を〜が分かりやすい。(労が減る。大きく見せたい)言葉の説明の時に動作化を入れるともっと理解が落ちたかもしれない。ワークシートはその時々で書いても良かったかもしれない。理科・社会・書写などでも有効だろう。

課題は、プロジェクタの数をせめて学年1にしてもらいたいということ。

#### Cグループ

活用の面では使うタイミングや使い方など十分検討する必要がある。提示画面をあまり変えないならば、拡大紙でもいい。必要性を考えたい。子ども達の発言なども書いていきたい。社会(歴史)などは触れられないので動画は有効であろう。デジタル教科書も所詮は道具、教材研究が必要。

#### Dグループ

板書を書く時間を子どもとのやりとりに当てられる。ゆったりした授業展開だった。学年・教科に合わせて研究が必要。頻度・デジタルのみだとどうなるのだろう。「明るさ」なども考慮してあげるべきだろう。

#### エ 指導講評

指導者 川越市武蔵野小学校 教頭 細谷 敏人先生

(ア) ただ使えばいいという訳ではない。意図(目的・手段として)を明確に。

○どんなときに使えばより意欲が高まるのかを考えたい。

○確認作業として。

○カタカナや文字の学習や動画を使ってイメージを。

○文章をじっくり見ながら検討する。 ←授業の効率化

・使用・不使用のメリハリを付けていくのがポイント。

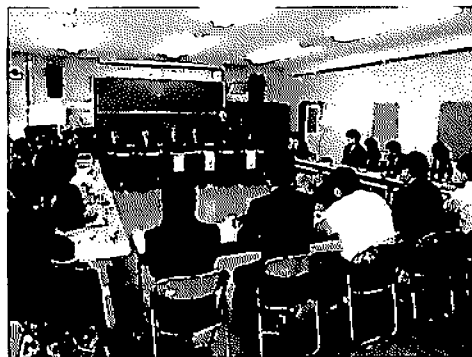
(イ) 低学年の教材では視覚的なものが必要。

・板書(黒板)に同じものがあるというのはすごくいい。教科と学年で考えるなら国語は最適。

○今まで線引きを積み重ねたことで本日のスムーズな活動ができた。

・「課題の提示 → 音読」など、どのような作業をすればいいのか分かっていた。

○自分の教科書でしっかり読むことが大事。分量の少ない場合は全文表示でもいいか。



- ・ 1年生は2回は読みたい。
  - ・ 「大事なところに線を引く」というところがいい。国語的になっていた。
- Ex) おもいものを もち上げる しごと を しています
- 書き込み機能が有効になっていきそう。
  - ・ 余分なページは消せたらいいのだが…
  - ・ 子どもたちが板書を見ながら確認ができていて良かった。（板書が教科書と同じだから良い）
  - ・ ある言葉を他の（別の）言葉で置き換えることは大事。
  - ・ 動作化させてもいい。語彙の獲得につながる。
  - 話し合いで挿絵を使う。叙述と挿絵を結びつけることが大事。動作化も叙述に即して。
  - ・ 学習の個別化と全体での確認をセットでやっていきたい。
  - ・ 「おもいもの」「つりあげる」 に関する言葉。
  - ・ 情報の取り出しはできるが、解釈（言葉と言葉を結びつけること）が弱い。
  - ・ 子どもが興奮してしまったので肝心の解説が聞けなかった。聞かせたい。
  - ワークシートにまとめる。今日はまとめとして使っている。余計なものがなければいいのに
  - ・ 話し合いに入れられない子のためにも音読させたい。（途中でも叙述を押さえたら読んでいい）
- (ウ) 作業的にはアナログだけど、教材・教具はデジタル。校内で使い、広めてもらいたい。

## オ 授業後の主な感想

子どもにとって自分の手元と全く同じものが黒板にあるということは、とても効果的であると思います。また、前時の復習が見えることもとても良かったです。カタカナや漢字の学習でも良いと思いました。

デジタル教科書の活用により、興味関心が高まり、子ども達が生き生きと授業に参加している様子が見られました。本文のどこに線を引いたのかを確認するときには、視覚的に理解ができるのでよかったですと思います。

使ったことのない「デジタル教科書」の授業だったので、とても感心しながら見ていました。無理に使うのではなく、その教材のめあてや目的にあった資料を見せるような使い方ができれば、効果的なのではないかと思いました。

デジタル教科書の活用が広まらない理由として、操作方法の不安、準備に時間がかかるなどが挙げられるが、情報教育主任として、職員への操作方法の伝達や活用しやすい環境づくりを進めていきたい。

教室の後ろから見ていたときの文字の大きさがどうしても気になりました。デジタル教科書の長所、短所をふまえた上で最善の利用方法を考えていきたいと思います。

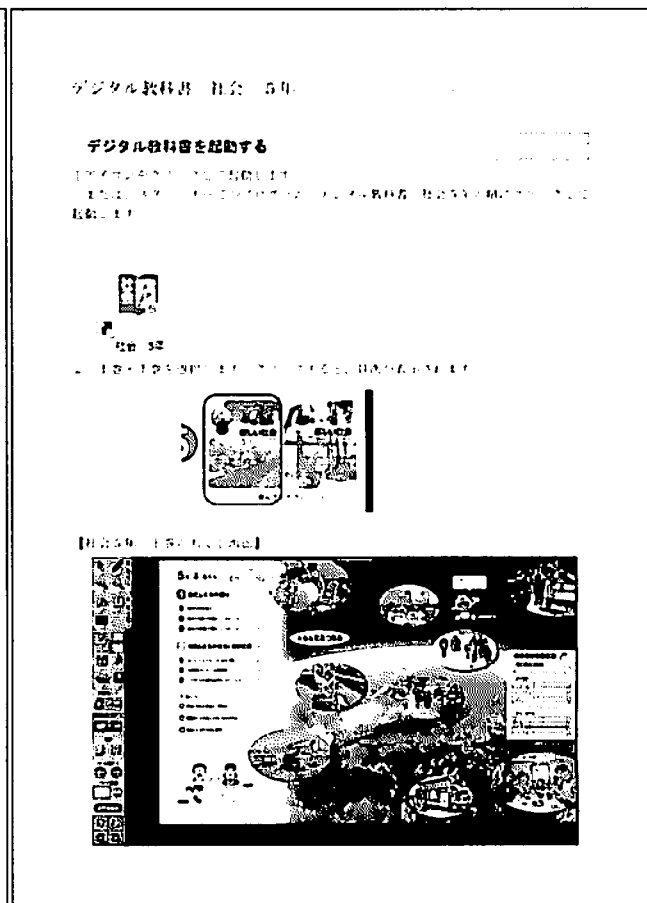
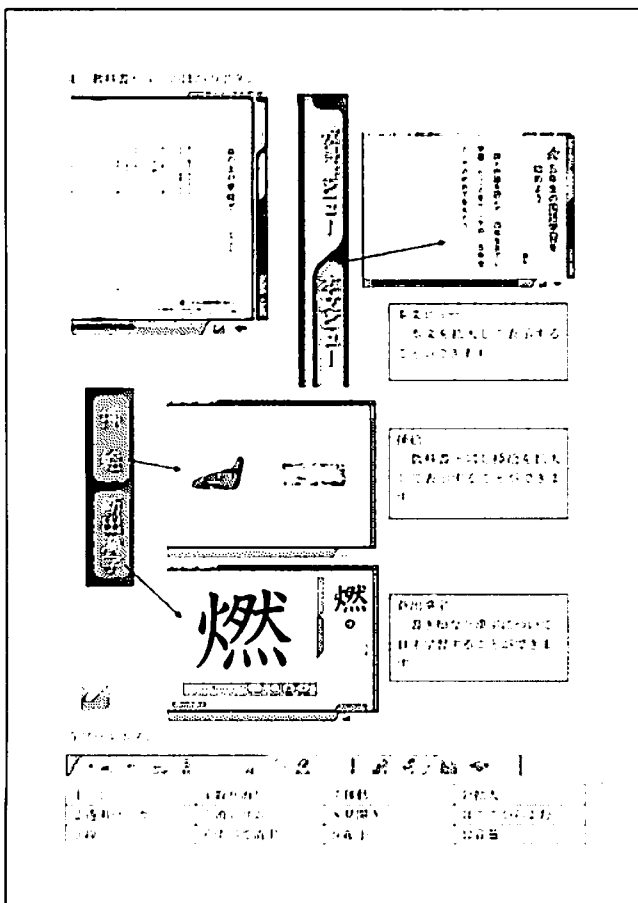
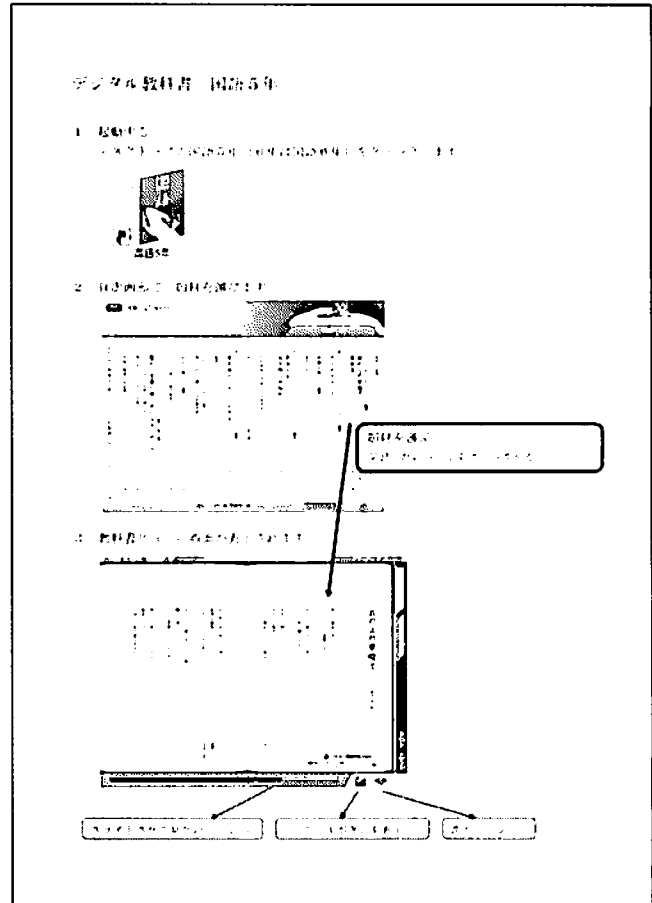
## (2) 情報収集部会

### ① デジタル教科書操作テキスト

新学習指導要領全面実施に伴い、小学校高学年向けに導入されたデジタル教科書は、単なる拡大教科書機能だけでなく、挿絵の拡大表示や動画表示、本文へのライン引き等授業で役立つ多彩な機能を備えている。

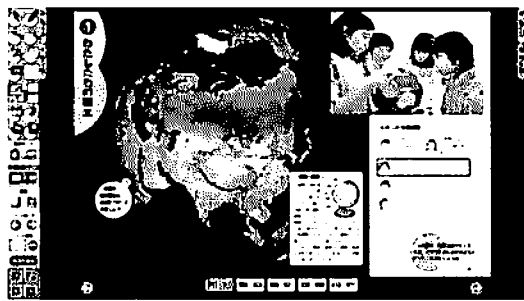
しかし、多機能ゆえ、どこを操作すれば良いのか慣れるまで分かりにくい面がある。そこで本部会では、誰もが教室で活用できるよう、基本の操作に絞った簡易マニュアルを作成した。

昨年度作成したプロジェクタ操作マニュアルとセットで活用することで教室でのICT活用授業が展開できる。



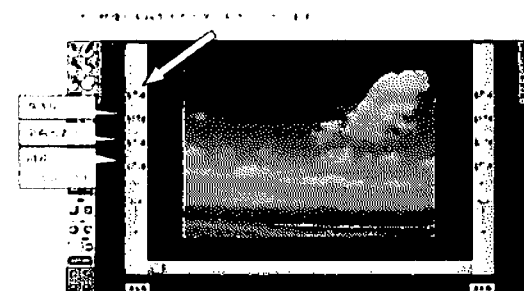
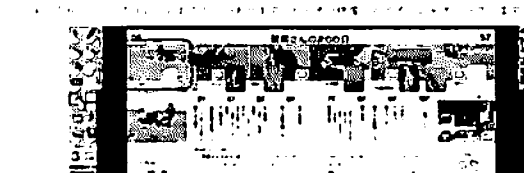
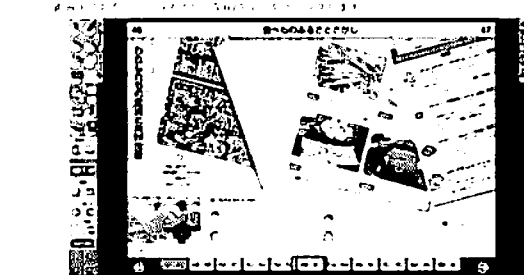
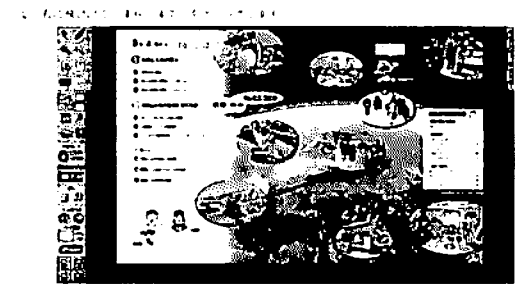
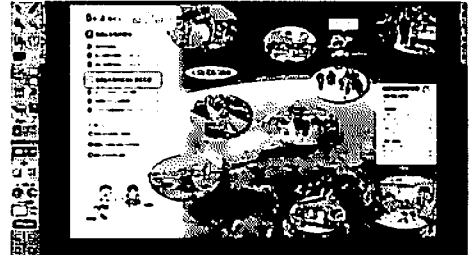
ページを表示する

1. ホーム画面を表示する  
2. 設定メニューを開く  
3. ページ番号を入力する



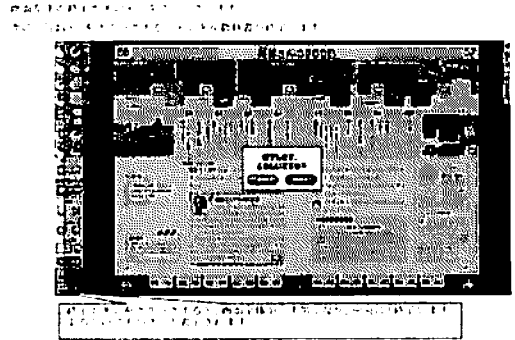
ビデオを見る

1. ホーム画面を表示する  
2. ビデオメニューを開く



1. ホーム画面を表示する  
2. 設定メニューを開く  
3. ページ番号を入力する

HTT6



## ② デジタル教科書インストールマニュアル

デジタル教科書は、学校ライセンスのため、台数制限なく、全ての校務用コンピュータにインストールして活用することができる。この操作は、各学校に配布されているデジタル教科書ディスクをコンピュータに挿入し、画面の指示に従って容易に行うことができる。

しかし、コンピュータ室において児童生徒用コンピュータから操作できるようにするためには、サーバーへのインストールが必要となる。そこで、情報機器管理者に専門知識がなくともサーバーにインストールできるように、画面絵を多用したインストール補助マニュアルを作成した。

### インストールの流れ

#### (1) サーバー PC

① 導入するサーバーにディレクトリを作成

② インストールプログラムの実行  
※ インストール先を作成したディレクトリに変更

③ ウェブサーバー (IIS) の設定

④ 仮想ディレクトリの作成

ア エイリアスの設定

イ ディレクトリの指定

ウ アクセス許可の指定

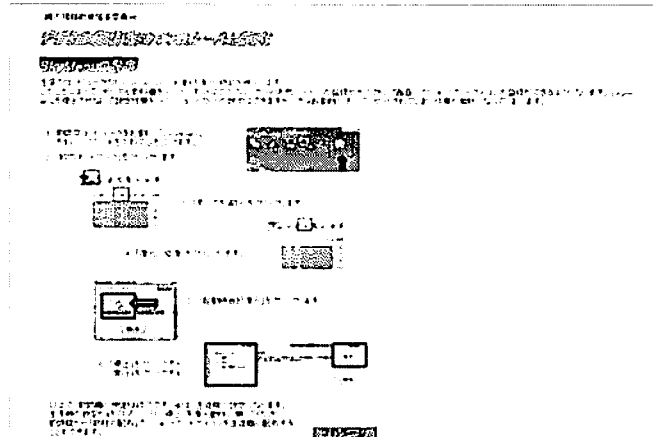
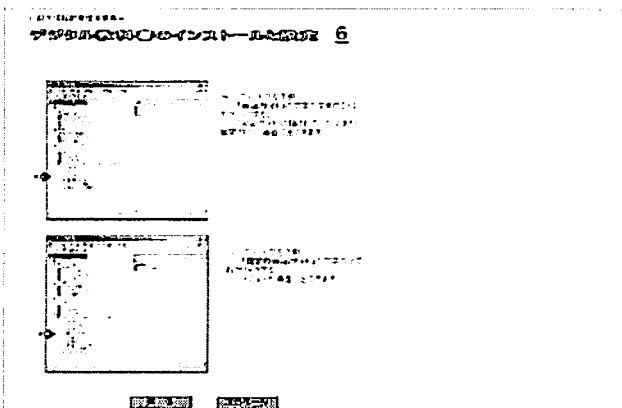
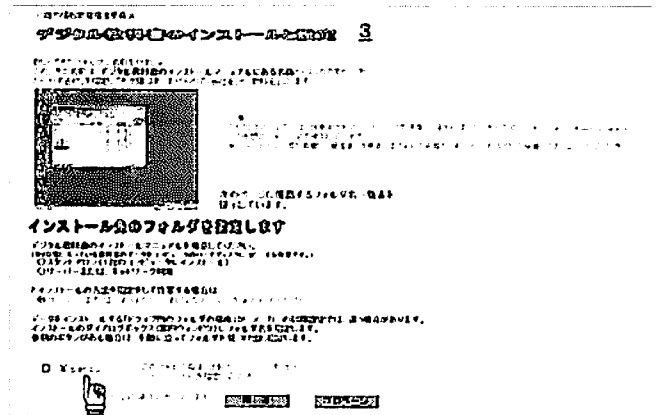
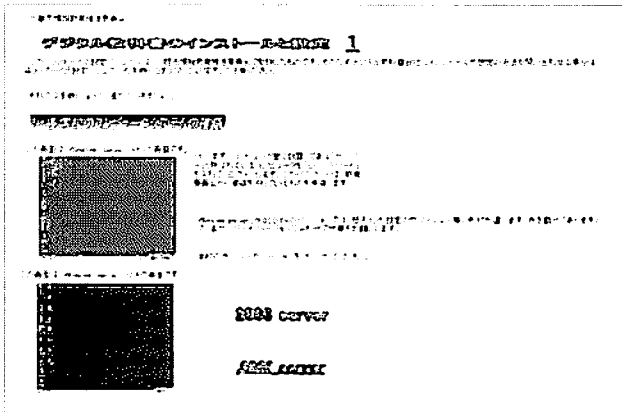
#### (2) 教師用 PC

⑤ ショートカットアイコンの作成

#### (3) 児童・生徒用 PC

⑥ アイコンの貼り付け

### マニュアル画面(抜粋)

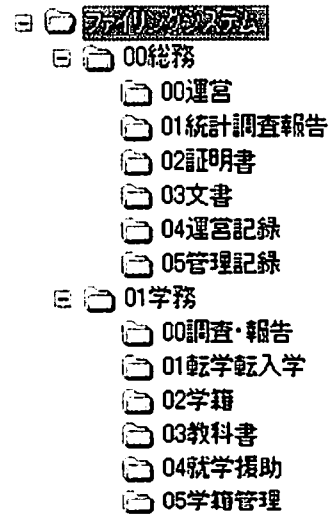


③ 校務の効率化を図るためのデータの作成及び収集

昨年度に引き続き、校務用コンピュータを活用し、授業への活用や校務の効率化を促進するためのデジタルコンテンツや開発ソフトを作成・収集し、教育センターホームページに公開することとした。

ア 文書フォルダディレクトリ

職員室にある文書用共有ドライブは、各学校で管理されており、ディレクトリ構成も統一されたものはない。そのため職員が移動した先の学校で担当の校務に関する文書を検索したり作成したりする際、戸惑うことが多い。そこで川越市のファイル基準表に準じたディレクトリ構成を作成して使用することで、市内どの学校でも統一された環境で事務処理ができ、校務の効率化につながるものである。



イ 授業時数集計シート

月末の時数集計は、時数確保の上で重要な作業である。学校によっては、以前からの紙ベースで集計を行っているところも多く、コンピュータ処理したいという声を多く聞いた。そこで表計算ソフトを利用した集計表を作成し、月末、学期末、年度末の時数集計が日々の入力をするだけで瞬時に計算され、計画時数に対する過不足数もみることができる。

月日	曜日	国語	書写	社会	算数	理科	生活
4/1	(日)						
4/2	(月)						
4/3	(火)						
4/4	(水)						
4/5	(木)						
4/6	(金)						
4/7	(土)						
4/8	(日)						
4/9	(月)						
4/10	(火)						
4/11	(水)						
4/12	(木)						
4/13	(金)						

ウ 各種調査集計シート

各種学力調査で回答数や回答率を集計するのは、時間がかかるものである。このような単純作業も効率化を図るため、集計シートを利用することで簡単に集計ができるようになる。また、アンケート集計等にも活用できるようにしている。

タイトル		1	2	3	4	5	6	7	8	9
No	氏名									
	項目									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
	9									
	10									
11										
12										

# 学力調査研究委員会

## 1 研究の概要

### (1) 目的

川越市立小中学校の児童生徒を対象に実施した教研式標準学力検査（NRT）、川越市中学生学力調査、埼玉県学習状況調査等の結果を基に、川越市全体の学力の状況を分析・考察し、各小中学校児童・生徒の学力向上を目指した指導法の工夫改善に資する。

### (2) 研究内容

- ① 平成22年度川越市中学生学力調査、平成22年度標準学力検査（NRT）、埼玉県学習状況調査（参考）の結果を分析する。標準学力検査及び中学校学力調査については経年変化を示す。
- ② 国語、社会、算数・数学、理科、英語の教科部会毎に、川越市の傾向や課題をつかみ、課題解決のための具体的な指導方法を示す。
- ③ 各学校が自校で研修できるように、それぞれの調査等を分析し、活用できるような冊子及び電子データを作成し、平成23年度末までに各校に配布する。

### (3) 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成23年8月26日（金）	教育センター	・ 委嘱書交付 ・ 趣旨説明 ・ 本年度の推進計画 ・ 各教科部会
平成23年11月30日（水）	教育センター	・ 結果の考察 ・ 指導の手立ての検討 ・ 原稿の作成分担
平成24年2月10日（金）	教育センター	・ 指導資料編の原稿の検討・調整 ・ 各教科部会



## 【国語科】

### 1 国語科における本市の傾向

- (1) 教研式標準学力検査（NRT）の偏差値を見ると平成18年度から平成23年度までの6年間の結果では、小学校、中学校のすべての学年で平均である50を越えている。また、正答者の割合である通過率の比較でも小中全学年で全国の数値を上回っている。ただし、学年が進んでの学力の推移を見てみると、ここ2年は全学年とも横ばいか、下降傾向が見られる。
  - ① 小学校では、小問において全国通過率と開きがあるのは主に言語事項である。特に、全学年に共通して低いのは漢字の書き取りで、4年生「晴れた」（通過率69％）5年生「相談」（同47％）、6年生「粉末」（同32％）であった。また、4、5年生では修飾語と被修飾語の理解が通過率30％以下という問いもあるなど、低い傾向にある。
  - ② 中学校でも言語事項についての小問が全国通過率を下回っているものがある。漢字の書き取りがそれで、特に中一の「経て」（通過率17％）、中二の「仕え」（同12％）など、訓の語句の通過率が低い傾向にある。また、四字熟語「絶体絶命」や語句の意味「面食らった」など、語彙を問う問題の通過率も全国平均より低かった。
- (2) 川越市中学生学力調査の結果では、やはり漢字の読み書きの一部に20～30％前後という、正答率の低いものが見られた。「不朽」の読み（31％）、「検討」の書き取り（21％）がそれである。また、古典の読み取りも市平均正解率が32％という問いがみられた。古文の内容をとらえる問題では、無回答率が63％という問いもあった。

### 2 国語科における課題

- (1) 「漢字の書き取り」の力が不足している原因として、読書の不足など、「語彙」が貧弱になっていることと、新出漢字の学習場面での練習にとどまることが多いことが考えられる。反復練習ももちろん有効だが、音読みや訓読み、その字を使用している熟語を紹介するなど、一つの漢字についての様々な使い方を知り、イメージを持たせることが大切だと思われる。
- (2) 「文法」については、修飾語などという難しい用語に抵抗を感じる子どももいるので、わかりやすい解説とともに、図画などを用いた親しみを持たせる指導も必要だと思われる。また、特設単元としてだけでなく、普段の読み書きの学習でも文法を意識した指導を心がけることが大切であろう。
- (3) 中学校での古典では、無回答率の高さから、古典に初めから苦手意識を持つ生徒が多いことがうかがわれる。「古典」という一つのジャンルという意識をなくし、現代まで連綿と続いてきた日本人としての考え方や行動が描かれたものとして、まず親しみを持たせる指導が大切だと思われる。

### 3 指導の手立て

学力調査の分析の結果から、「言語事項」に課題があることが明らかとなった。特に「漢字の書き」、「主語・述語・修飾語」に課題があることがわかった。「漢字の書き」に関しては、小中ともに低い傾向にあり、主語・述語・修飾語に関しては、例年、本市は低い傾向にある。そこで、以下のような指導の手立てを講じることにした。

#### (1) 小学校

漢字を正しく使う力をつけさせるためにはどうしたらよいか。

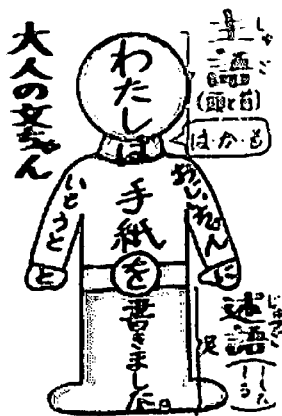
漢字の書き取りの指導は、全学年における新出漢字の指導、「漢字の広場」における既習漢字の指導のほか、右のような流れで学習することになっている。低学年で習う漢字は使用頻度が高く、たくさんの読み方や使い方のある漢字が多い。したがって、新出漢字を学習する際や漢字を学習する單元において、様々な読み方・書き方にふれさせたい。（ワークシート①）また、高学年においては、学習した漢字も増え、文にあわせて正しい漢字を使い分けることが課題として浮かび上がっている。したがって、熟語に置き換えて考えたり、別の訓読みに考え直したりすることで、適切な漢字を使い分けることができるよう指導していきたい。（ワークシート②）

- |    |             |
|----|-------------|
| 1年 | かんじのはなし     |
| 2年 | 同じぶぶんをもつかん字 |
| 3年 | へんにつくり      |
| 4年 | 漢字の組み立て     |
| 5年 | 漢字の成り立ち     |
| 6年 | 漢字の形と音・意味   |

主語・述語・修飾語を正しく理解させるにはどうしたらよいか。

教科書では右のような單元にて主語・述語・修飾語を学習することになっている。しかし、それらの単元の枠だけで指導が終わっていることが多くないはであろうか。これらの学習は日常生活にも密接に関連した学習である。したがって、

- |    |                     |
|----|---------------------|
| 1年 | ふたりでおはなし<br>(主語・述語) |
| 2年 | 主語・述語               |
| 3年 | 修飾語                 |



その学習を取り上げて指導するだけでなく、繰り返し指導していくことが大切だと考える。そこで、教科書の中の一文を抜き出して、その文の主語・述語を答えさせるなど、読む活動に取り入れたり、書く活動の中で修飾語を意識して作文させたりしていくことで、主語・述語・修飾語の理解も深まるのではないだろうか。文ちゃん等【手立てⅧ】の活用も併せて行うことも効果的であろう。ワークシート③④は2年生の主語・述語の学習時において、また3年生以降でも効果的であると考える。ワークシート⑤は4年生以降の学習用に作成した。

これらのワークシートを授業時や朝自習等に使用し、その後、書く活動や読む活動、話す・聞く活動に生かしていくよう指導していきたい。

## (2) 中学校

語彙を豊かにするにはどのような指導をしたらよいか。

- ① 熟語を学習する際、ゲームのような競争を取り入れると、生徒のやる気が俄然高まる。目的や生徒の実態に合わせた方法を工夫したい。その際には、辞書や便覧などの資料を用意させ、手立てと時間を十分に与えるようにする。(資料1)
- ② ゲームの勝敗も評価の一つではあるが、それだけに終わらないように、確認テストなどを行うことで、その学習の有用性を認識させることが重要である。

漢字練習の時間を確保する、あるいは効率的に行うにはどのような指導をしたらよいか。

- ① 毎回の授業の始業10分間を漢字の練習に充てる。漢字のワークなどを使用し、単元に沿って学習させると、授業の予習にもなる。さらに練習の際に、音読みはカタカナで、訓読みは平仮名で書かせるタイプのワークを使うと、音訓の区別の感覚も育まれる。週に一度程度確認テストを行い、点数によって宿題や課題を与え、習熟を図るとよい。
- ② 同じ漢字について、音読みと訓読みの例文が載っているワークも多いので、合わせて覚えることの有用性を説明しておく。すなわち、同じ漢字を使った熟語を学習することで、漢字の書き取り問題に際し、音読みのもの、訓読みのもの両方向から類推できるようになるということである。(ワークシート⑥)

古典に親しませるにはどのような指導をしたらよいか。

学力テストの無回答率の高さからみて、「古典」というものに初めから苦手意識を持つ生徒が少なからずいることは確かであろう。まずは、古典というものが現代とかけ離れた世界のものであるという認識を変えるところから始めたい。一年生の教科書では、たとえば「故事成語」など、現在でも生きている言葉を取り上げているが、それだけでは不十分であろう。古典の授業に際しては、普段の授業にもまして導入が大切ということになる。日本人の考えや感覚、感情などは時代にかかわらず、私たちの体に連綿と流れているということを、わかりやすく興味深い具体例から感じさせる導入を工夫したい。(資料2)

## 【社会科】

### 1 社会科における本市の傾向

- (1) 教研式標準学力検査（NRT）の偏差値を見ると、平成19年度から平成23年度までの5年間において、小学校では、4・5・6学年全ての学年で平均値である50以上を上回っているが、中学校においては、偏差値平均を上回ったのは、平成19年度の1学年のみで、あとは全て偏差値平均50以下となっている状態が続いている。
- (2) 小学校では、第4学年（内容第3学年）では、ここ数年「昔のくらしや道具」の領域で正答率が低かったのが改善されてきた。ここ数年第5学年（内容第4学年）では、「地図を見て土地の様子を見る」「地図から読み取る昔の開発」の正答率が低い状態で、第6学年（内容第5学年）では、工業地帯の位置や特色が、平均を大きく下回っている。
- (3) 中学校においては、地理・歴史・公民と3つの分野に分類するとここ数年、歴史分野において全国を下回る項目が目立っている。特に奈良、鎌倉、室町時代のあたりが、平均を下回っている状態が続いている。
- (4) 中学校において実施されている「川越市中中学生学力調査」においては、昨年まで、知識理解を問う問題の正答率は良いが、社会的な思考・判断を問う問題の正答率が低い傾向にあったが、第2回目の調査では、正答率の数値が逆転し知識理解の正答率が、大幅に下がってしまった。

### 2 社会科における課題

- (1) 小学校で、標準学力検査の結果から「地図から読み取る・・・」「地図を見て・・・」「工業地帯の位置」等において正答率が低くなっている理由として、読図力の不足が考えられる。地図帳は4年生から使うことになっているが、授業中なかなか開くことが少ない。常に手元に置いて教科書等と併用しながら学習を進めていくことが大事と考えられる。
- (2) 中学校の学習内容の中で大きな課題となっているのが、歴史分野である。小問の中で、特に奈良、平安、鎌倉、室町時代の学習内容が大きく全国平均と比較して下回っている。遣唐使関係（-10・-11）御成敗式目（-17）平家物語（-20）室町時代の農民（-14）と全国との差が10ポイント以上の開きとなっている。
- (3) 「川越市中中学生学力調査」においても、歴史分野の中世、近世の正答率が低く、中には正答率が一桁のものまである。対策としては、各時代毎にしっかりとまとめ、時代背景とともにその内容をきちんと整理しておく必要がある。また、事象間の因果関係も十分に理解させることも大事である。

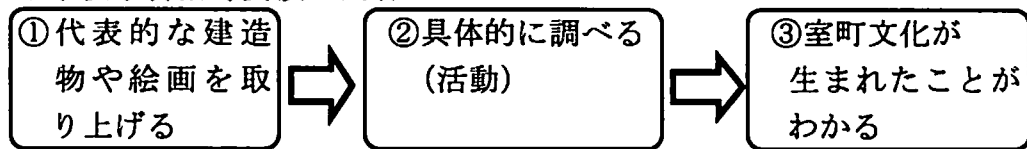
### 3 指導の手立て

#### (1) 小学校

##### 室町文化に興味関心を高める指導の工夫

ここ数年小中学校において、同じ課題のある分野や単元を取り上げ、小学校と中学校との学習する内容や目標の違いなどを明確にし、どのように指導していくかを提示している。今回は、室町時代を取り上げ、小学校、中学校の指導法や指導の手立て、指導方法の違いを提示し、小学校において室町文化に興味関心を高めるための指導法を考えてみた。

##### <小学校学習指導要領の内容>



##### ◎単元名「今に伝わる室町文化」(東京書籍) <5時間扱い>

- ①金閣や銀閣はどのような建物なのか調べよう。  
<金閣・銀閣・足利義満・足利義政>
- ②書院造りの特色を調べよう。  
<書院造り(たたみ・ふすま・違い棚・障子・付け書院)  
茶の湯・生け花>
- ③すみ絵や雪舟について調べよう。  
<雪舟・すみ絵>
- ④室町時代に生まれた文化を調べよう。  
<能(観阿弥・世阿弥) 御伽草子・狂言・食事(3回)>
- ⑤室町文化を体験しよう(案)
  - \*体験が可能なもの  
A案<茶の湯体験>                      B案<生け花体験>
  - \*体験場所
    - ・校舎内の和室(ある場合)を利用する。
    - ・近隣の公民館、公会堂等の和室を借用する。
  - \*指導者
    - ・公民館活動等で実際に活動している団体又は、個人に依頼する。
    - ・子どもサポート及び学校応援団等で協力を呼びかける。
  - \*事後指導
    - ・体験をレポートや新聞にまとめる。
    - ・指導者へのお礼の手紙を書く。

## (2) 中学校

### 室町文化を絵にすることで、効果的に指導する工夫

#### < 歴史的分野 (第 1 学年) >

歴史的分野の「室町文化」において、ワークシートを活用した上で、室町時代の文化遺産を絵にすることを通して基礎・基本の定着をはかる学習指導法について考えてみた。

#### ① 指導の手立て

歴史学習において文化の学習は、生徒が様々な事象に対する関心を高め、多面的・多角的に考察する重要な分野である。しかしながら文化はすべて 1 時間以内の扱いで十分な時間をとれぬまま、様々な文化遺産が単なる文字情報として生徒の中を素通りしてしまう授業の実情があると考えられる。そこで諸調査の結果から理解度の低い「室町時代」に目を向け、小学校では 4 時間扱いの「室町文化」の学習に際して、少ない時間の中での単なる文字情報に終わらぬよう、生徒が文化遺産を絵にすることで視覚的・感覚的にとらえ、関心をもって基礎・基本の定着が図れる手立てを試みた。

#### ② 指導の流れ (1 時間扱い)

ア 教科書を読む。(5 分)

イ 教科書、資料集の写真や絵を見て、印象を発表し合う。(5 分)

ウ ワークシート 1 に文字で人物、建築、芸能等を記入していく。

(10 分)

エ 指導教師側から、修学旅行で出会うこと、世界的に貴重で魅力ある文化遺産であること、見どころなどを説明する。(7 分)

オ ワークシート 2 を使い、教科書、資料集を参考に室町文化を絵にする。興味あるものから 4 点以上描けるよう指導する。(20 分)

カ 宿題にし、絵の下に一言感想を書き、次時の提出を指示する。

(3 分)

#### ③ 指導上の留意点

ア 絵を描くというより、描くために対象物をよく観察していることに意義があることを伝える。

イ 机間指導時に個々の文化遺産を話題にし、特徴や見どころ、疑問点など、生徒が関心や理解を深められる時間帯になるよう工夫する。

ウ 世界に誇る日本文化を知る喜びを意識させる。

エ 評価は、絵の内容は問わず、提出することに重点を置く。

## 【算数・数学科】

### 1. 算数・数学における本市の傾向

- (1) 教研式標準学力検査（NRT）の川越市の結果によると、算数では、小3・内容においては「図形」領域が全国と同値である以外は2ポイント以上上回っている。小4・内容においてはすべての領域で上回っており、特に「数量関係」領域では6.5ポイントも上回っている。小5・内容においては「量と測定」領域が下回っているが、その他の領域は2ポイント以上上回っている。しかし小6・内容では「数と式」「図形」領域がほぼ全国と同値であり、「数量関係」領域においては2.2ポイントも下回っている。学年が上がるにつれて領域によって課題が見られるとともに、全国平均と同じ程度となっている。

中1・内容においては、「図形」「関数」領域では、全国の正答率をそれぞれ2.2ポイント、1.6ポイント下回っているが、「数と式」では5.8ポイント上回っている。「資料の活用」は全国平均と同じであった。

- (2) 川越市中学生学力調査の結果でも、やはり「図形」「関数」ともに30%前後という正答率の低いものが見受けられる。また、無回答率も40%近くあるものもある。

### 2. 算数・数学科における課題

- (1) 小3・内容においては、小問別において、「乗法」の2位数×2位数において課題が見られる。3位数×2位数においても、全国平均よりは良いものの、50%を下回っており、喫緊の課題と言える。秤のよみについては、めもりが20gとなると極度に正答率が低くなる。めもりの間隔が何gなのか判別できるようにしたい。円・球については、具体物を用いて定着を図っていきたい。
- (2) 小4・内容においては四則の混じった計算に課題がみられる。出題された問題は四口の計算であるが、計算自体は難しくないため、加減乗除や（ ）の計算の順序の理解が不十分であることが原因として考えられる。また、面積の単位換算や四捨五入などの問題においても、題意をきちんととらえて解決できるようにしたい。
- (3) 小5・内容においては、「 $2 \div 3$ の商を分数で表す」という基本的な問題で、昨年度に引き続き全国より大きく下回っている。分数の加法減法においては、帯分数が混じった計算及び異分母の計算が下回っている。また、立方体の体積を求める問題でも大きく下回っている。
- (4) 小6・内容においては、場合の数の3問において全国を大きく下回っている。また、分数の乗法の立式、正六角形の理解など全国を下回るものはすべて5ポイント以上下回っており、定着を確かなものとしたい。
- (5) 中1・内容においては、特に「関数関係の事象」、「条件に合う立体を選ぶ」、「基本的な作図の手順」の習得が不十分である。全国との差は少ないが図形領域では「対称移動」「垂直二等分線の作図」「直線・平面の位置関係」、関数領域では「比例関係のグラフ」「反比例グラフが通る点」の通過率が低い。

以上の課題から、算数ではどの学年においても基本と思われる内容及び、基本を用いた内容において、できないものや全国を下回るものが多く見られた。また、算数・数学全般的に図形領域および面積・体積など図形に関わる量と測定領域に課題がみられる。

算数においては、数学での課題である図形領域との関連を見据えて「四角形と三角形の面積」における三角形の面積を求める学習について指導の手立て・指導資料を示した。数学においては、「比例と反比例」「図形」について指導の手立て・指導資料を示した。

### 3 指導の手立て

#### (1) 小学校

#### 平行四辺形・三角形の面積を面積の求め方を考えるための指導の工夫

平行四辺形や三角形、ひし形及び台形の面積を求めるには、既習の求積可能な図形の求め方を基に考えることが大切である。

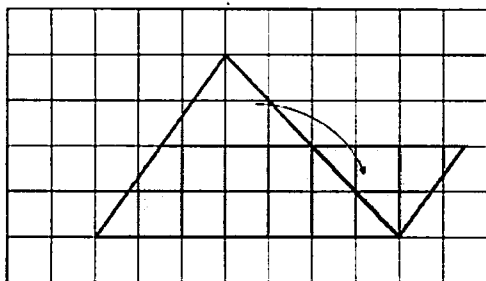
そのためには第1学年で色板や箱などを用いて形とその特徴をとらえる経験をしたり、第2学年で正方形、長方形、直角三角形を使って平面を敷き詰める活動を通したりして、ある形が別の形を組み合わせることができることをとらえられるようにしたい。

また、第4学年の面積の学習において、1平方cmの方眼に面積が4平方cmとなる形をつくる活動を通して、形が変わったり違ったりしても、面積は変わらないことを理解できるようにし、ある図形の一部を切り取って別の部分につけて形を変えても面積は変わらないこと（等積変形）をとらえられるようにする。

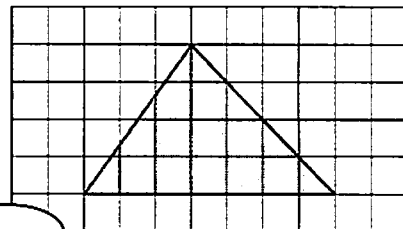
第5学年では平行四辺形や三角形を既習の求積可能な図形に形を変えて面積を求める際に、①図形の一部を移動して、既習の図形に等積変形する考え②既習の図形の半分の面積であるとみる考え③既習の図形に分割する考えをそれぞれ経験できるようにする。

活動例：三角形の面積の求め方を考えよう。  
(第5学年)

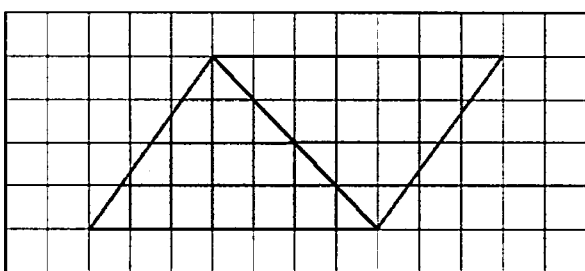
#### ①図形の一部を移動して、既習の図形に等積変形する考え



一部分を動かして、  
平行四辺形に変えら  
れるね。

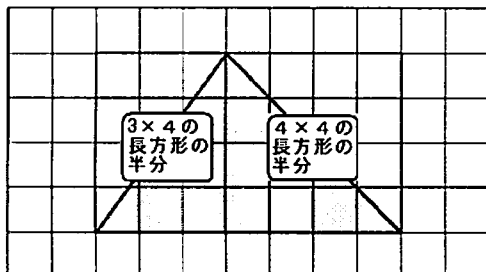


#### ②既習の図形の半分の面積であるとみる考え



同じ三角形を合わせ  
て平行四辺形ができ  
るね。

#### ③既習の図形に分割する考え



2つの直角三角形に  
分ければ、それぞれ長  
方形の半分として見  
られるね



## (2) 中学校

具体的な事象を通して関数関係を見だし表現し、考察する能力を高める指導の工夫

### 中学校第1学年「比例と反比例」

中学校1学年では、具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係について学習する。また、関数関係を見だして表現し考察する能力を培う。

小学校ではすでに、伴って変わる二つの数量の関係について表やグラフを用い考察したり、比例や反比例などの用語も含め数量の関係を式化する学習も行われている。

中学校ではこのような学習を基にさらに、「関数」そのものに焦点を当てて、伴って変わる2つの変数の間の関係として広く捉える学習に移行していく。今回の改訂では「関数」の定義が中学1年に移行した。そこで、「…と…は関数関係にある。」「…は…の関数である。」ことの意味を理解し、数量関係の基本的なモデルとして小学校算数科で学習した比例、反比例を関数としてとらえ直す学習が必要である。

本時は、「比例・反比例」の学習の最初の時間に、小学校の学習とのつながりを考えた資料を活用して学習を進める。特に初めて出会う「関数」という言葉の意味や、「…と…は関数関係にある。」「…は…の関数である。」等のように言葉で表現することで「関数」の概念をしっかりと理解させたいと考えた。

課題 ともなって変わる2つの数量について調べてみよう。

(指導の流れ)

#### ア 小学校の復習

- ・課題1 (中学校数学資料ワークシート3) に取り組む (課題1は小学校5年生で学習した内容)

(2) 表についてどんなことがわかりますか。

- ・横の長さを2倍、3倍、4倍…すると面積も2倍、3倍、4倍…となる。(表中の横の関係)
- ・比例だ(生徒の中には何が何に比例しているかまで理解していない生徒が多いと考えられる)
- ・面積=横の長さ×5 になっている。(表中の縦の関係)

#### イ 課題2 (中学校数学資料ワークシート3) に取り組む

- ・ $x$ 、 $y$ を用いて、2変数の関係の考え方や分析方法を【課題1】を参考にしながら自力解決をさせる。

#### ウ 「変数」、「関数」の2つの用語について課題1, 2をもとに説明し定義を理解させる。

- ・比例も関数の1つであることに触れる。反比例についてはあえて取り上げないが、生徒から出てきた場合には、考えさせるのもおもしろい。(比例や反比例以外にも関数ってあるのかな?などの発言やつぶやきは今後の授業のポイントにつながるので大切に扱いたい。)

#### エ 課題3, 4 (中学校数学資料ワークシート4) に取り組む

- ・正方形の場合は面積、周りの長さなどが答えとして出てくることが期待できる。長方形では面積、周りの長さともに求められない(不定)ことから「関数」の定義をより確かなものとした。また、課題1, 2ではなぜ面積が求められたのかを考えさせることで、変数が2つであることの確認にもつなげたい。

## 長さや面積を求める学習での、筋道の立て方の指導の工夫

小学校での図形の学習は、操作的な活動や直線的な取り扱いを中心として、図形についての感覚を育てると共に、図形の問題や簡単な図形の性質を活用して判断したり、表現したり処理できるようにすることをねらいとしている。

これに続く中学1年生では、図をかくことや観察・操作や実験を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深め、論理的に考察していく。

特に、図形の問題では長さや面積・体積を、求められる形に分解していくということが大切である。そのままでは、どう計算すればよいかわからない形をしていても、分解することで、見通しをもって取り組むことができる。全体としては難しく見える問題でも、小さい問題に分割し、ひとつひとつの手順を簡単にし、取り組みやすくしていく方法を紹介していきたい。

### <ワークシート5の活用方法>

「半円を重ね、色をつけた図形の周りの長さを求める」問題で考えてみる。

#### ① 情報を集める。

4枚の半円の形をした紙A、B、C、Dを図のように4枚重ねた。

#### ② 情報を整理する。

図の中にA、B、C、Dの記号を書き込む。

#### ③ 解き方を考える。

求められる形に分割する。特に直線と曲線は分けて考える。

#### ④ 式に適切な数値を入れて計算していく。

小学校では円周率を3.14、Dの直径を25.6cmで計算し、中学校では、円周率を $\pi$ 、Dの直径を $r$ として計算すると小中共同課題として活用できる。また、各円の共通点を半径の右端にそろえるだけでなく、円の中心にそろえる等、工夫して提示してもよいと考える。

答え：小学校では、119.9cm

中学校では、 $175 / 128 \pi r + 25 / 64 r$  cm

## 【理科】

### 1 理科における本市の傾向

小4～中1について、平成23年度の教研式標準学力検査（NRT）における各中領域の全国通過率と本市の通過率とを比較検討した。その結果、以下に示した内容が、全国通過率を大きく下回っていることがわかった。

小3内容	○植物の育ち方やからだのつくり(-10.9)物の形と重さ(-5.6)
小4内容	○動物の活動と季節(-5.3)
小5内容	○植物の発芽・成長・結実(-5.9) 流れる水の働きと土地の変化(-7.2) ふりこの動きとそのきまり(-16.2) ☆もののとけ方と水よう液の重さ(-5.2)
小6内容	☆水よう液の性質(-9.5) ものの燃え方(-7.2) ○人のからだのつくりとはたらき(-6.8) ○動物の成長とくらし(-7.0)
中1内容	○身近な生物の観察(-6.0) ○植物のからだのつくりと働き(-6.3) ☆水溶液の性質(-3.6)

また、中学3年生については、平成22年度の川越市中学生学力調査において全中間で大幅に正答率30%を下回った内容は以下の通りであった。

第1回	身のまわりの現象（圧力） 天気とその変化（湿度） ○植物の世界（対照実験） 化学変化と原子・分子（反応式） 電流（オームの法則と磁界）
第2回	身のまわりの現象（音） ☆身のまわりの物質（中和） 運動と力（仕事）

この分析結果をもとに、各内容の正答率が上がっていくよう指導方法の改善・充実を図っていくことが必要である。

### 2 理科における課題

本市の傾向として、系統性を考慮して考えると、小・中学校に共通して習得が不十分と考えられる内容があることがわかる。その主な内容としては「動植物に関わる内容（上表○印）」と「水溶液に関わる内容（上表☆印）」の2つを挙げることができる。

上記2つの内容のうち、「動植物に関わる内容」については、課題は残るものの昨年度の本取組において分析と指導の手立てを講じ、一定の改善が見られた。そこで、今年度は、「水溶液に関わる内容」について検討することとした。

水溶液に関わる内容の理解が不十分な原因としては、「水溶液の中で起きている現象が目に見えない。」という点が考えられる。

そこで、小・中学校の接続を意識し、「目に見えない現象」を如何に児童・生徒にとって「見える現象にするか。」という視点で、その手立てを示すこととした。

### 3 指導の手立て

#### (1) 小学校

「目に見えない粒（粒子）」という見方や考え方を定着させ、水よう液に対する理解を深めるための段階的な指導

- ① 小学校 4 年生 「空気や水をとじこめると」
- ② 小学校 4 年生 「ものの温度と体積」
- ③ 小学校 5 年生 「もののとけ方」
- ④ 小学校 6 年生 「水よう液の性質」

- ① 本単元は児童にとって初めての「目に見えない粒（粒子）」についての基本的な見方や概念を学習する機会となる。そこで、その視点を重視したワークシートを活用しながら学習を行うことで「目に見えない粒（粒子）」に対する見方や概念を持てるようにする。
- ② 既習の「目に見えない粒（粒子）」という考え方で問題解決につなげることで、「金属のように目に見えるものも実際には同じように小さな粒でできている。」という考え方を持てるようにする。
- ③ 「ものがとける＝目に見えなくなる」という導入から、キーワード「目に見えない」に着目させ、①②の既習内容を想起させることで、「ものは水にとけても、小さな粒として、その中に存在している。」と捉えられるようにし、「ものを作っている小さな粒は、状態によって変化する。」という考え方を持てるようにする。
- ④ リトマス紙を使った水溶液のなかま分けの学習を通して、「ものを作っている粒には、それぞれ性質がある。」という考え方を持てるようにする。また、水溶液に金属を加える学習を通して、これまでの「とけたものは、水よう液の中に存在する。」という考え方から「つぶとして存在はするが、別の物質に変化することがある。」という考え方を持てるようにする。

※ 「目に見えない粒（粒子）」という考え方に重点を置いた指導の系統性

	単元	身に付けさせたい考え方
第 4 学年	空気や水をとじこめると	・空気や水は目には見えないが小さな粒でできている。
第 4 学年	ものの温度と体積	・小さな粒は、温度によってかさが増える。 ・金属のように目に見えるものも小さな粒でできている。
第 5 学年	もののとけ方	・小さな粒は状態によって姿が増える。
第 6 学年	水よう液の性質	・小さな粒にはそれぞれ性質があり、それによってものの性質が決まる。 ・粒は別の物質に変化することがある。

(2) 中学校

小学校や中学校での既習事項を振り返りながら、水溶液の性質について理解を深めるためにはどのように指導したらよいか

第1学年 「水溶液の性質」

第3学年 「化学変化とイオン」

数研式標準学力調査（NRT）において、水溶液の性質に関連する項目の通過率が30%以下であり、川越市中学生学力調査においても中和反応などについての正答率が低い。これらの要因として考えられるのは、目に見えない原子・分子の概念を理解していないことに由来していると考えられる。そこで、小学校で学習した水溶液の性質の学習を振り返りながら、物質の溶け方についてモデルで表すなど可視化した授業を展開するとともに、イオンのモデルと関連づけた微視的な学習を行っていくことが大切である。

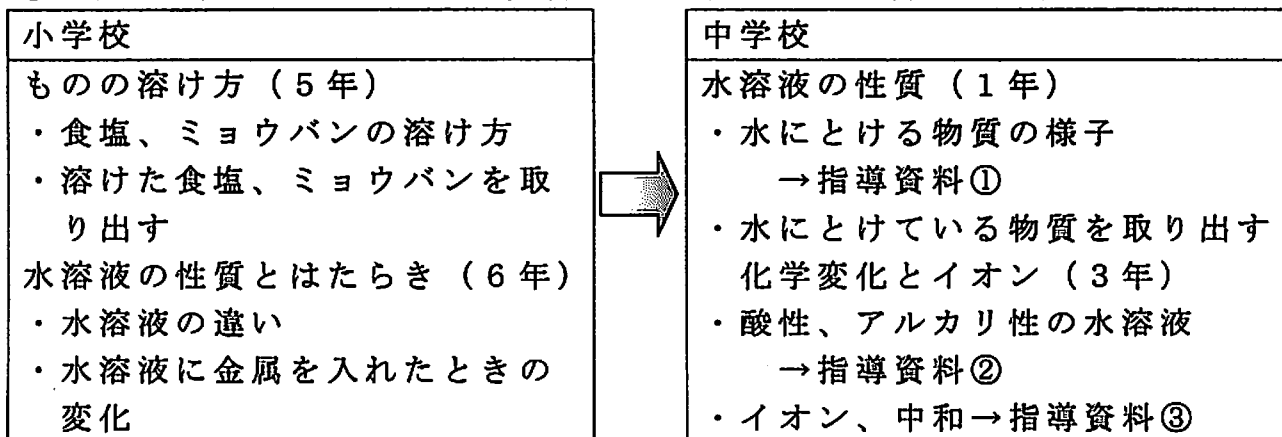
① 「水溶液の性質」

小学校で学習した「ものの溶け方」を復習しながら、水溶液の中で溶けている物質（溶質）が均一に分散していることを見つけ出し、その現象を粒子のモデルを用いて表現するとともに説明することができる。

② 「化学変化とイオン」

水溶液に電流を流す実験からイオンの存在を知る。  
今まで学習した事柄を復習し、酸とアルカリの性質を調べる実験から水素イオンと水酸化物イオンがあること、中和の実験から水と塩が生成することを見い出し、イオンのモデルを用いて表現するとともに説明することができる。

[水溶液に関する小学校での既習事項と中学校の学習内容の関連]



## 【英語科】

### 1 英語科における本市の傾向

- (1) 標準学力検査では、4領域（書く〈W〉・話す〈S〉・聞く〈L〉・読む〈R〉）の内、今年度はすべてが全国平均を超えることができた。しかし、昨年度、一昨年度も「書くこと」だけが正答率50%を超えておらず、これまで以上に力を入れていくべきである。基本的な単語や語句を使っての書くことができず、繰り返しの取り組んでいくべきである。
- (2) 川越市中学校学力調査において得点率は、5教科の中で第1回目、2回目ともに下位である。昨年同様「表現力」と「知識理解力」が非常に弱く、正答率40%を超えていなく、さらに力を入れていくことが必要であるとわかった。

これらの結果からやはり「読む〈R〉」つまり読み取る面において力不足であるので、対話文の読み取りにおいて会話の流れや長文の要約をし、内容を理解できるようにしていかなければならないだろう。

### 2 英語科における課題

- (1) 昨年度も課題となっていた「基本的な単語や英文を書くこと」や「適切な語句を使って書くこと」については、正答率が全国に比べるとかなり低かったので、特に力を入れていかなければならない領域である。基礎学力を定着させるために、英単語や基本英文の書き取りや繰り返し練習を習慣化させていくことがひとつの手立てと考えられる。
- (2) 問題によって正答率に差があり、英単語をひとつひとつ確実に理解し、英文を深く読解できるようになることが大切だと思われる。読解力を高めるためにも、より多くの文法を扱っている英文のまとまりや物語等を読ませたい。練習を積む中で、初めて見る英文を読解する段階においてもある程度自信を持って読み進めていくことができるであろう。時に合った様々な資料や教材を提示し継続的に学習を支援していけるよう指導の改善を図っていきたい。

### 3 指導の手立て

(1) 単語を書き取り、覚える習慣をつけさせるための指導

該当学年：中学1年～3年 【指導資料(1)】

教科書で学んだ既習の単語について毎週10題ずつ、つづりと読み方に注意して発音した上で書き取り練習の課題を課す。英単語練習シートを活用して練習を積み、翌週の授業においてテストを行う。

(2) 基本英文を暗記し、使えるようにさせるための指導

該当学年：中学1年～3年 【指導資料(2)】

教科書の必須基本文を音読練習し、その後書き取り練習を通して暗記させることで文法問題、英作文問題に対応する力を育成する。定期的に空所補充式の問題演習をこなしポイントやパターンをマスターさせる。

(3) 長文を読解を通して物語のイメージをする活動

タイトル：「The North Wind And The Sun」 【指導資料(3)】

該当学年：中学3年生

幼い頃に読書したことがある童話を今まで学習してきた内容を思い出しながら、英文の読解や絵を描写することで内容を把握できているかを見ていきたい。絵を描写することでいつもと違う取り組みから生徒の興味を引き出したい。

タイトル：「Mt. Everest - Mom」 【指導資料(4)】

該当学年：中学3年生

川越市に在住されている田部井淳子さんのエピソードを熟読し、世界で活躍して行くまでの経過を既習の単語や文法を振り返りながら、英文の読解と絵の描写に取り組みせたい。また、彼女は川越の誇りうる人物ということも知ってもらいたい。

## 教育に関する3つの達成目標推進研究委員会

### 1 研究の概要

#### (1) 目的

全市立小・中学校の「教育に関する3つの達成目標」に向けた教育活動を活性化させ、児童・生徒のバランスのとれた学力・規律ある態度・体力の育成を図る。

#### (2) 研究テーマ

「次代を担い、たくましく生きる児童生徒の育成」

#### (3) 研究方針

「教育に関する3つの達成目標」を推進する学校を支援し、資料等を提供する。

#### (4) 研究内容

① これまでに本委員会が作成した指導資料の活用の推進

② 学校・家庭・地域の連携による「教育に関する3つの達成目標」への取組の充実

#### (5) 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成23年7月12日(火)	教育センター	○委嘱書交付           ○趣旨説明 ○計画の策定 ○各部会：研究の取組・方向について
平成23年8月29日(月)	教育センター	○部会毎：課題の分析 ・実践について資料作成の割振
平成23年11月8日(火)	教育センター	○紀要原稿について ○取組のまとめに向けて検討
平成24年2月10日(金)	教育センター	○紀要原稿の検討 ○成果物の検討

### 2 現状と課題

川越市の平成23年度「教育に関する3つの達成目標」に係る効果の検証結果では、全体的に向上がみられたが、以下の問題・項目において達成率が低かった。

「読む・書く」・・・小・中学校ともに、文章を書く問題。

「計算」小学校・・・割り算、小数・分数の乗法・除法、求積問題。

中学校・・・分配法則を用いた計算や、途中式を書いて答える問題、式の値、連立方程式、因数分解の問題。

「規律ある態度」・・・あいさつ、学習の準備を整える、整理整頓、ていねいな言葉づかい、発表する態度・聞く態度の項目。

「体力」においては、年々向上がみられるが、運動の苦手な児童生徒を運動好きな児童生徒にさせることで、自分の体力に応じた目標を達成できるようにさせたい。

各学校においては、これらの達成率の低い項目について具体的な手立てを考え、学校と家庭が連携して取り組むことで効果を上げることが課題である。



### 3 各部会の取組

#### 【読む・書く部会】

##### 1 具体例の概要

昨年度は、家庭と学校との連携を通して「教育に関する3つの達成目標」への取組の充実を図ることとした。そこで、「読む・書く部会」は、家庭学習に保護者が関われる手立てとして、漢字に焦点をあてた方策を考えた。

具体的には、前学年までの学年別配当漢字を書いたり、読んだりすることができるように学年別の漢字ポスターを作成した。このポスターを各家庭に配付し、目につく場所に掲示し、活用してもらうことで、漢字の習得を目指したものである。


今年度は、各学校で、この取組をより効果的に推進できるように、具体的な実践例を示すこととした。

##### 2 実践例

#### 《小学校》

(1) 年度当初に保護者会などで漢字ポスター（図1）を配付する。

「教育に関する3つの達成目標」についての説明を行い、年間を通して家庭で漢字練習に取り組んでもらえるよう呼び掛ける。



### 親子でチャレンジ!!

「教育に関する3つの達成目標」の「学力」の学習目標

小学5年生

**前学年までの既習漢字と現学年の配当漢字を読んだり、書いてみるようにしましょう!**

一切を引いているのが、小学5年生の学年配当漢字(185字)の一覧です。お子さんは全部習得していますか？ 一回習以外にも習った漢字は書きましょう。マスターした漢字には、○に色をぬりましょう!

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
物	か	火	目	清	群	知	保	草	表	期	事	入	増	資	列	教	倍	撰	
一	く	災	次	深	れ	至	護	い	現	際	故	場	加	料	定	師	率	書	

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
姿	質	主	真	結	結	出	提	提	規	成	教	類	類	退	新	日	純	責	撰
勢	す	題	団	る	く	出	提	提	規	成	教	類	類	退	新	日	純	責	撰


60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41
設	溜	祖	金	比	構	興	混	耳	農	採	臨	現	類	類	類	後	政	改	正
管	れる	父	属	台	園	味	合	じ	師	集	華	注	作	成	忘	後	治	正	解

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

他の学年別配当漢字(小5)

庄 波 可 仮 価 価 河 質 類 刊 眼 日 禁 句 経 件 検 鉦 講 査 委  
財 罪 酸 支 資 示 合 準 織 往 精 績 舌 踐 像 則 程 徳 犯 肥  
非 依 貧 仏 基 質 綿 余 預 客 略 頓



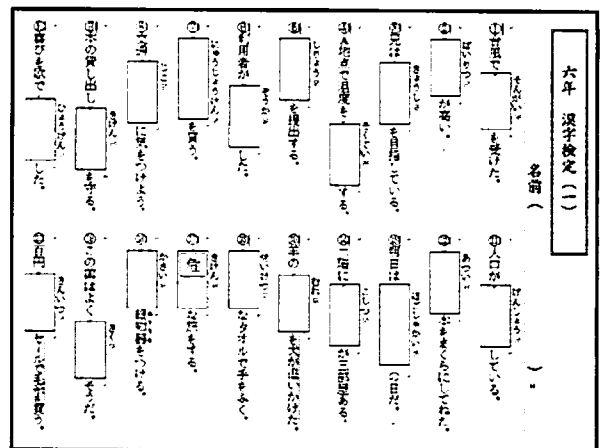
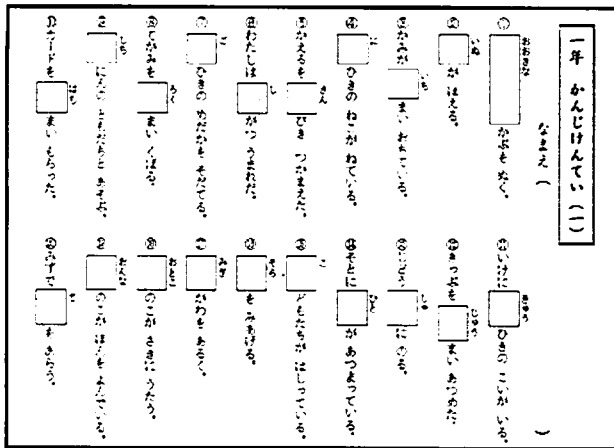
(図1) 漢字ポスター

(2) 全校で漢字検定に取り組む。

学年ごとに20問ずつの漢字検定プリント（図2）を作成し、朝学習の時間や授業の中で実施する。朝学習や国語科の年間計画に位置付け、全校で取り組む体制を整える。

例1：範囲と検定日を告知し、一斉に進める。合格しなかった場合は、再テストや漢字練習で補う。

例2：朝学習（〇〇タイム等）で、個の進度に応じて取り組む。合格するまで繰り返し挑戦する。

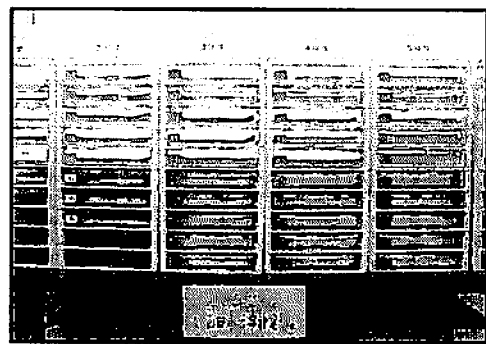


(図2) 漢字検定プリント

(3) 漢字検定コーナーを設置する。

漢字検定プリントは、常時、棚 (図3) に入れておく。自主的に家庭学習で活用したり、個の進度に応じて活用したりと、いつでも児童が取りに行けるように設置する。

長期休業中を利用して、補充したり、内容の見直し等を行ったりする。

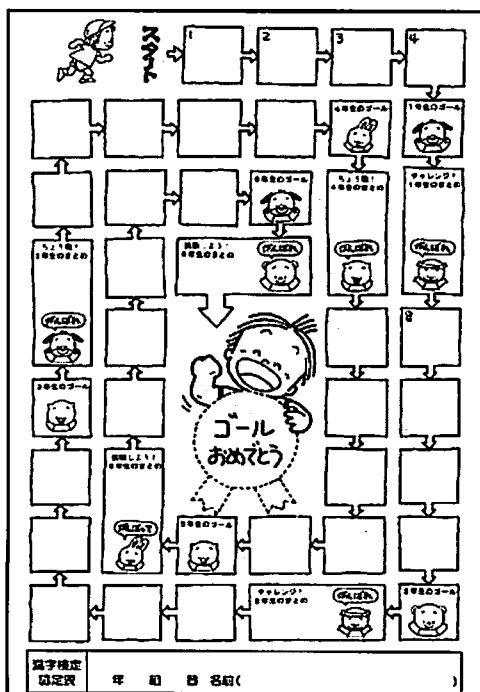


(図3) 漢字検定コーナー

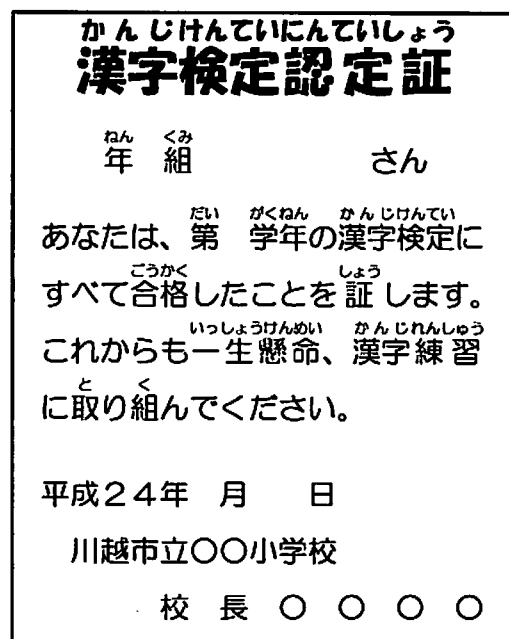
(4) がんばりカードや認定証で意欲付けを図る。

学習の足跡をがんばりカード (図4) に記録したり、認定証 (図5) を渡したりして学習意欲を高める。

また、「学力向上月間」等を設け、学校だより等で漢字ポスター・漢字検定の取組を保護者に紹介し、啓蒙していく。



(図4) がんばりカード



(図5) 漢字検定認定証

## 《中学校》

学校の取組として、『3つの達成目標』に示された「学力」の目標のうち国語の「漢字」について、定期的に小テストを実施し、そのテストに合格させるための働きかけを学校と家庭が連携して行うことを通して、生徒の基礎学力向上を図る。

以下に具体的な実践を紹介する。

(1) 生徒に、家庭学習の習慣化と基礎学力の向上を図るため、1学期に、2週間に1回のペースで全校一斉に6回の小テストを実施し、計画的にその勉強を進めることを知らせる。

小テストは各回10問とし、それぞれ指定された20問の中から出題する。テストのやり方、第1回から第6回までの各20問と解答並びに実施日、結果の記録表は印刷して生徒に配り、冊子に綴り込ませる。

- ・各回20問の中から10問をテストで出題します。
- ・小テストはあらかじめ決められた日に行います。8点以上が合格です。  
合格できなかった人は学習会に参加し、知識を定着させましょう。

### 【前日まで】

- ・家でくり返し練習をして、20問すべて書けるようにしておく。
- ・はねや止めなど、模範解答を見て、正確に覚える。

### 【当日】

- ・帰りの会の中で、小テスト(10問、1問1点で10点満点)を実施。  
(テスト時間は5分)



- ・採点…各クラスの国語担当の先生が行う。

### 【後日】

- ・返却後、小テスト・模範解答をB5ファイル(小テスト用に学校で購入したもの)にとじこみ、記録表に感想を記入。保護者に見せ、印をもらい、学級担任に提出。
- ・0～7点だった人は、放課後学習会で再テストを受ける。

\*合格ラインは8点。

(1年…〇〇室、2年…〇〇室、3年…〇〇室)



- ・次回に備えて練習！！

また、学期末には、6回分のまとめテストを実施する。

(2) 年度当初、「『漢字テスト』による学力向上の取り組みについて」文書を保護者に配付し、1学期に6回の「漢字テスト」とその「まとめテスト」を実施すること、並びに実施日をお知らせする。

また、保護者会などで『3つの達成目標』についての説明を行うとともに、「読む・書く」力のうち漢字能力の向上を図る小テストの取り組みを学校として実践していくことを伝え、併せて家庭学習の習慣化を図るための協力を依頼する。

後日、各家庭にリーフレット及びお子さんが受検する第1回から第6回までの問題並びに解答を配付する。

H24年度

# 「確かな学力」は「基礎・基本」の定着から!

\*\*\*\* 国語編 \*\*\*\*



( )年( )組 氏名( )

『確かな学力』は「基礎・基本」の定着から!  
漢字書き取り の取り組み

- ・各回20問の中から10問をテストで出題します。
- ・小テストはあらかじめ決められた日に付きます。9点以上が合格です。合格できなかった人は学習会に参加し、知識を定着させましょう。

【前日まで】


- ・家でくり返し練習をして、20問すべて書けるようにしておく。
- ・教科や上のなど、問題時間をよく見て、正確に書える。

【当日】

- ・帰りの会の中で、小テスト(10問、1問1分で10分程度)を実施。(テスト時間は5分)
- ↓
- ・採点 各クラスの国語担当の先生が行う。

【後日】

- ・返却時、小テスト・模範解答をB5ファイル(小テスト用に学校で購入したもの)にとじこみ、返目者に返却を記入。保護者に見せ、印をもらい、学習担任に提出。
- ・0～7点だった人は、放課後学習会で再テストを受ける。
- ・合格ラインは8点。(1年…00点、2年…00点、3年…00点)
- ↓
- ・次回に備えて練習!



冊子(左綴じ)表紙 B4版色画用紙右半分に印刷

冊子表紙裏《小テストの取り組みについて》

『確かな学力』は「基礎・基本」の定着から!

2年生第1回～第3回問題

問題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正解										

2年生第1回～第3回解答

問題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正解										

『確かな学力』は「基礎・基本」の定着から!

2年生第1回～第3回問題

問題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正解										

2年生第1回～第3回解答

問題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正解										

2年生第1回～第3回問題(左)と解答(右)

それぞれ第1～6回をB4版見開きで印刷し、綴じ込む



(3) 学級担任は、テスト1週間前に練習プリントを配付し、家庭学習で練習させる。

数日前の帰りの会（学年で揃えることが望ましい）で範囲 20 題の全問プレ・テストを実施し、不正解だった漢字の練習をさせる。

プレテストの丸つけは、担任、生徒相互、自己採点、いずれの場合も、とめ・はね・払いに留意する。

(4) 漢字テスト

(5) テストの結果はB5版のファイル（学校でまとめて購入）に閉じ込ませ、冊子の得点記録表とは別に、下のテスト記録表に記入させ、保護者の確認印をもらってこさせる。

テスト記録表				年 級 学 年
回数	合格・不合格	ひとこと感想を書きましょう	保護者に	
1	合格・不合格			
2	合格・不合格			
3	合格・不合格			
4	合格・不合格			
5	合格・不合格			
6	合格・不合格			
合計	合格・不合格			

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
学	年	級	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓
学	年	級	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓
学	年	級	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓
学	年	級	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓
学	年	級	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓	名	姓

中学2年生第1回練習プリント

(6) 7点以下の生徒は指定された日の帰りの会後、学年ごとに決められた教室で再テスト（全く同じ10問）を受ける。

8点以上取れるまで学習、再テストを繰り返し行う。各学年2～3人ずつ教員が付いて指導、採点する。

(7) 学期末に、第1回から第6回までの全範囲 120 題から 50 問の「まとめテスト」を行う。実施時間は20分とし、朝の会の後に実施する。

朝読書の時間を10分確保している学校については1・2校時を45分授業とし、朝読書の時間と併せて20分を生み出す。朝読書の時間を設けていない学校は、午前中の4時間を45分にするこでテスト時間を生み出せる。

(8) 「まとめテスト」の対策として、事前に2回分40問もしくは3回分60問の復習テストを帰りの会で実施する。テストの丸つけは、担任、生徒相互、自己採点、いずれの場合も、とめ・はね・払いに留意する。

これは、川越市立砂中学校の実践がベースになっている。各回及び「まとめテスト」のクラス平均点を競わせ合い表彰することで、生徒のモチベーションが上がる。

全校で取り組むことが望ましいが、学年で取り組むことも可能であるとする。

なお、この取組に必要なプリントのデータは、各校で使用していただけるように作成してある。是非、活用していただきたい。

## 【計算部会】

### 1 具体例の概要

これまで川越市の「計算部会」では、「教育に関する3つの達成目標」の確実な習得に向けて、児童・生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせるため、朝の時間や授業の数分間を利用して「できるかな？」テスト、その結果を集計し自分の実力を確認する「できたかな？」の個人カルテを作成してきた。これらは、各学校でそれぞれの実態に応じて活用されてきた。

しかし、近年、学校・家庭・地域との連携による「教育に関する3つの達成目標」の取組の充実が求められ、昨年度は、学校と家庭でできる「計算すごろく」を作成した。これは、一問ずつ解くことによってすごろくを進むというもので、解答も渡しておくことによって、家庭でまたは児童・生徒自身で、楽しみながらゴールを目指して問題を解き、何度も繰り返して行うことによって基礎的・基本的な計算の力を身につけさせようというものである。

以上のように、学校では「できるかな？」テスト・「できたかな？」カルテの取組、家庭では「計算すごろく」の取組を行うことで、「教育に関する3つの達成目標」の計算について確実な習得を推進してきた。

また、本年度は、新学習指導要領の改訂により、小学校は本年度（平成23年度）から、中学校は来年度（平成24年度）から実施されることを受け、以前から各学校で取り組まれてきた「できるかな？」テスト・「できたかな？」カルテの内容について、新学習指導要領と照らし合わせ、作成し直した。1回のテストの問題数を減らし10分以内で取り組めるようにしたこと、どの学年も年間5回の実施にしたこと、「できたかな？」の個人カルテを1枚に収めたことなど、これまでの取組の反省も活かした。

以上のように「計算部会」では、学校においても家庭においても、気軽に身近に繰り返し取り組むことができ、また、その結果についてわかりやすく自己評価できるものを提供することによって、児童・生徒、教師、保護者が関わり合いながら楽しく計算についての基礎的・基本的な学力を身につけることができるものを作成した。

### 2 実践例

#### (1) 「できるかな？」テスト「できたかな？」カルテの活用の仕方

##### ① 学校での活用

今年度、新学習指導要領の改訂に伴い、「できるかな？」テスト、「できたかな？」カルテの改訂を行った。そこで、内容を精選し、1回あたりのテスト時間を10分以内で取り組めるようにし、年5回（1, 2学期2回ずつ、3学期1回の計5回）実施できるようにした。基礎的・基本的な問題を年間通して計画的にかつ繰り返し取り組むことで計算力の確実な習得を図るのがねらいである。

#### 「できるかな？」テスト

「できるかな？」テスト

年 組 日

名前

4-1 (H23-1)

① 次の数を数字で書けろから。(1万より大きい数)は0を埋めてください。

① 二万四千七百四十九

② 一万零八十、何百何十何の何

③ 下の数値線に  に、あてはまる数を書きましょう。

0 10度 20度 30度 40度 50度

② 次の計算をせよ。(2, 3桁の1は2桁の計算)

① 40-2

② 54-7

③ 16-3

④ 256-4

⑤ 609-6

⑥ 622-3

できたかな?

～具体的な実践例～

(朝の業前の時間に 15 分程度計算や算数の基礎的な内容に取り組む時間を確保している学校における取り組み)

- 朝の業前学習時間のうち、年間 5 回を全校で「できるかな？」テストに取り組む時間として計画的に時間を確保する。
- 各学年の実態に応じて、例えばできるかなテストを 10 分、答え合わせ・○付けに 2 分、「できたかな？」カルテの記入に 3 分というように使用する。
- 「できたかな？」カルテを保護者に配布し回収する。

「できたかな？」カルテ

このような取り組みを行うことで、児童自身が理解のできているところとできていないところを認識し、それを教師が見ることで教師も個々の理解不足の点を把握し、学級全体で理解不足の内容がある場合には授業の中で習熟を図るなどの取り組みができる。

また、全問正解のできた児童は下の振り返りのように新たな目標をたてて学習意欲を高めることにもつなげることができた。

「できたかな？」カルテに自分のこれからがんばってみたいことを書いた児童の記入例

算数学習の個人カルテ (4年生)		できたかな?		学年 50	
問題	正解	正解	正解	正解	正解
1 100より大きい数を5つ書きなさい。					
2 100より大きい数を5つ書きなさい。					
3 100より大きい数を5つ書きなさい。					
4 100より大きい数を5つ書きなさい。					
5 100より大きい数を5つ書きなさい。					
6 100より大きい数を5つ書きなさい。					
7 100より大きい数を5つ書きなさい。					
8 100より大きい数を5つ書きなさい。					
9 100より大きい数を5つ書きなさい。					
10 100より大きい数を5つ書きなさい。					
11 100より大きい数を5つ書きなさい。					
12 100より大きい数を5つ書きなさい。					
13 100より大きい数を5つ書きなさい。					
14 100より大きい数を5つ書きなさい。					
15 100より大きい数を5つ書きなさい。					
16 100より大きい数を5つ書きなさい。					
17 100より大きい数を5つ書きなさい。					
18 100より大きい数を5つ書きなさい。					
19 100より大きい数を5つ書きなさい。					
20 100より大きい数を5つ書きなさい。					
21 100より大きい数を5つ書きなさい。					
22 100より大きい数を5つ書きなさい。					
23 100より大きい数を5つ書きなさい。					
24 100より大きい数を5つ書きなさい。					
25 100より大きい数を5つ書きなさい。					
26 100より大きい数を5つ書きなさい。					
27 100より大きい数を5つ書きなさい。					
28 100より大きい数を5つ書きなさい。					
29 100より大きい数を5つ書きなさい。					
30 100より大きい数を5つ書きなさい。					
31 100より大きい数を5つ書きなさい。					
32 100より大きい数を5つ書きなさい。					
33 100より大きい数を5つ書きなさい。					
34 100より大きい数を5つ書きなさい。					
35 100より大きい数を5つ書きなさい。					
36 100より大きい数を5つ書きなさい。					
37 100より大きい数を5つ書きなさい。					
38 100より大きい数を5つ書きなさい。					
39 100より大きい数を5つ書きなさい。					
40 100より大きい数を5つ書きなさい。					
41 100より大きい数を5つ書きなさい。					
42 100より大きい数を5つ書きなさい。					
43 100より大きい数を5つ書きなさい。					
44 100より大きい数を5つ書きなさい。					
45 100より大きい数を5つ書きなさい。					
46 100より大きい数を5つ書きなさい。					
47 100より大きい数を5つ書きなさい。					
48 100より大きい数を5つ書きなさい。					
49 100より大きい数を5つ書きなさい。					
50 100より大きい数を5つ書きなさい。					

これからがんばってみたいこと

第1回 ( / )

千万より大きい数の数字をかく時「0」を何こなのか早くわかるようになりたい。

これからがんばってみたいこと

第1回 ( / )

暗算でできる問題は暗算でやる。もう少し早くやる。

これからがんばってみたいこと

第1回 ( / )

千万より大きい数字をまちがえないようにもうちょっとがんばる。

## ② 家庭での利用

「できたかな？」カルテを保護者に配布し確認してもらうことで児童の学習状況を

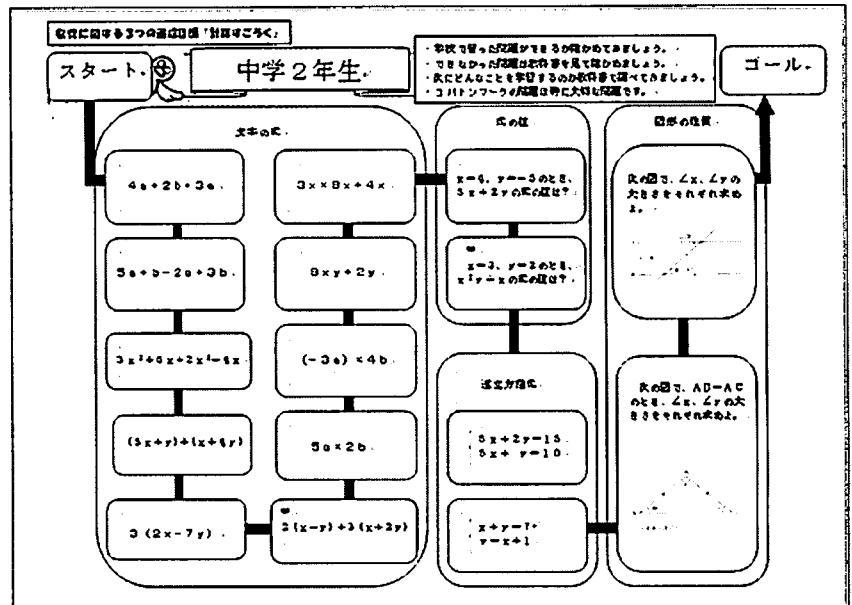


把握してもらうことができる。そのうえで、以下の(2)にあるような「計算すごろく」に取り組んでもらうことで基礎的・基本的な問題を繰り返し取り組むことができ、計算力の確実な習得を図る。

(2) 「計算すごろく」の活用の仕方

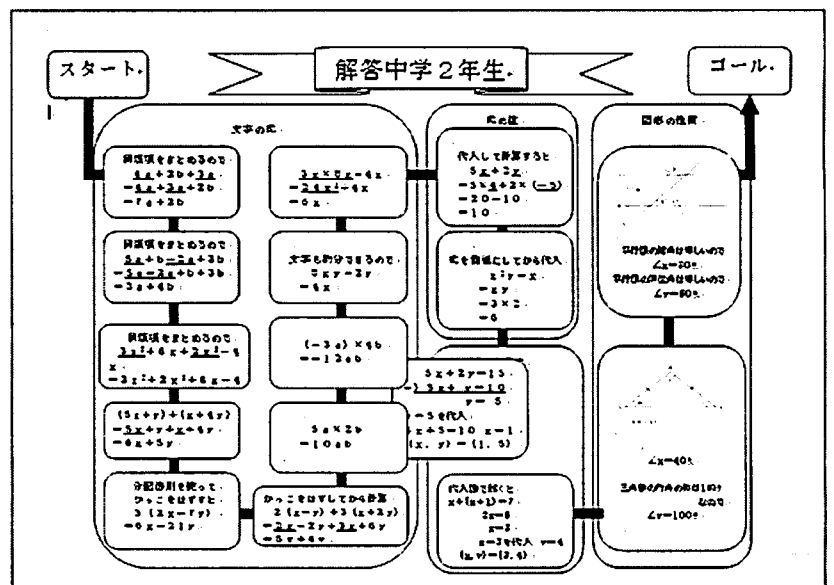
① 学校での活用

教室や廊下等に拡大して掲示し、問題に触れる機会を増やす。問題の紙をめくると解答が見られるように工夫すると、気軽に解法をチェックすることができる。また、「できるかな？」テストで全員ができた問題には花をつけ、クラス全体の取り組みにすると計算力が向上している跡が見え、達成感を味わわせることができる。児童・生徒同士の教え合いのきっかけにもなり、効果的である。



② 家庭での利用

「計算すごろく」は家庭掲示用としても配布し、繰り返し学習できるようにする。「計算すごろく」の問題は、「できるかな？」テストの問題を基にして作成しているのでテスト前の勉強として使用することができる。基礎的な問題だけを厳選し、すごろく形式にしてあり、裏面には解法もあるので、苦手な児童・生徒でも取り組みやすくなっている。また、「できたかな？」カルテを見ながら、保護者ができなかった問題を把握したら、「計算すごろく」を用いて再度復習することができる。家庭に掲示してもらうことで、学校だけでなく家庭でも繰り返し取り組むことができる。



【規律ある態度部会】

1 具体例の概要

今年度、家庭と学校、地域の連携を通して「教育に関する3つの達成目標」への取組の充実を図ることとした。規律ある態度部会では、小学校・中学校の実践例を示し、家庭・学校・地域が今後もよりよい形で連携を深め、より効果的に取り組めるよう期待するものである。

2 実践例

<小学校の実践例>

(1) 自己評価カード（川小っ子カード）の活用

① ねらい

家庭におけるしつけのめやすとし、規律ある態度の意識化を図る。

② 実施方法

学期に1回、1週間ほどの評価期間を設け、家庭での取り組みについて子どもと話し合っって評価を記入する。実施については、学校だよりや学年だよりで周知を図って意識を高める。保護者からの励ましの言葉や子どもの反省・決意など記入し、提出する。

3学期には、学年別に学校全体の集計を出し、考察をして保護者会で報告をする。

③ 実践結果

ア 昨年 80%以下であった「家の手伝いを進んでする。」が、「よくできる」「できる」を合わせ 80%以上となり、改善された。

イ 「自分の持ち物の整理整頓」と「脱いだ靴をそろえる」「丁寧な言葉遣いができる」は、どの学年も少しずつよくなってきているが、課題である。

平成23年度

川小っ子カード

川崎市立川越小学校

年 組 番 なまえ \_\_\_\_\_

※このカードを張り返ってお子さんと一緒に評価をして下さい。  
評価は下の3段階 でおこないます。

	よくできた◎	できた○	もう少し△
6	9	1	
	18	10	28
1	時 <sup>じ</sup> 刻 <sup>け</sup> を守 <sup>まも</sup> って生 <sup>い</sup> 活 <sup>くわつ</sup> する <sup>こと</sup> が <sup>で</sup> き <sup>る</sup> 。		
2	自 <sup>おの</sup> 分 <sup>の</sup> 持 <sup>も</sup> ち <sup>もの</sup> の <sup>せい</sup> 理 <sup>せい</sup> 整 <sup>とん</sup> を <sup>し</sup> る <sup>こと</sup> が <sup>で</sup> き <sup>る</sup> 。		
3	ぬ <sup>い</sup> だ <sup>く</sup> つ <sup>を</sup> そ <sup>ろ</sup> え <sup>る</sup> こと <sup>が</sup> で <sup>き</sup> る。		
4	元 <sup>げん</sup> 気 <sup>よく</sup> あ <sup>い</sup> さ <sup>つ</sup> を <sup>し</sup> る <sup>こと</sup> が <sup>で</sup> き <sup>る</sup> 。		
5	呼 <sup>よ</sup> ば <sup>れ</sup> た <sup>ら</sup> 「は <sup>い</sup> 」と <sup>こ</sup> た <sup>え</sup> を <sup>し</sup> る <sup>こと</sup> が <sup>で</sup> き <sup>る</sup> 。		
6	て <sup>い</sup> ね <sup>い</sup> な <sup>言</sup> 葉 <sup>づ</sup> か <sup>い</sup> が <sup>で</sup> き <sup>る</sup> 。		
7	「あ <sup>り</sup> が <sup>と</sup> う。」「ご <sup>め</sup> ん <sup>な</sup> さ <sup>い</sup> 。」を <sup>ま</sup> 直 <sup>に</sup> い <sup>う</sup> こ <sup>と</sup> が <sup>で</sup> き <sup>る</sup> 。		
8	宿 <sup>しゅ</sup> 題 <sup>や</sup> 学 <sup>がく</sup> 習 <sup>じゆう</sup> 用 <sup>じゆう</sup> 具 <sup>ぐ</sup> の <sup>せい</sup> 備 <sup>び</sup> を <sup>お</sup> ん <sup>ん</sup> で <sup>し</sup> る <sup>こと</sup> が <sup>で</sup> き <sup>る</sup> 。		
9	家 <sup>い</sup> の <sup>て</sup> づ <sup>か</sup> い <sup>を</sup> 進 <sup>すす</sup> ん <sup>で</sup> し <sup>る</sup> こ <sup>と</sup> が <sup>で</sup> き <sup>る</sup> 。		

	おうちのひとから	お子さんから	担任確認印
6			
9			
10			
1			
28			

※表の左の欄に家の人からこどもたちに一言励ましのことばをお願いします。  
右側にはお子さんから一言記入して下さい。



<おうちのひとから>  
・友達の家に行ってもくつをそろえているようなので、これからも続けてね。(5年保護者)  
・すごいね。かえてきたらすぐにしゅくだいとつぎの日のしたくができる日がふえたよ。すこしずつがんばっていこう。(1年保護者)

<お子さんから>  
・くつをそろえることはできたので、時刻を守って生活できるようにがんばります。(5年児童)  
・むずかしかったけどがんばったよ。(1年児童)

#### ④ 取り組みの成果と課題

○毎年続けることで、家庭の意識も高まり、少しずつ改善の方向にある。

○「うちのひとから」は、これまで学校への報告のような書き方がされてきたが、「子どもへの励ましの言葉」としたことで、家族で生活習慣について振り返り、話し合う機会が作れた。また、それに対応して「お子さんから」という欄を新設し、児童の反省や決意を記入させることによって、児童のやる気を引き出し、再確認させることができた。

●児童自身が自分の学校生活を振り返ることのできる評価カードを、学校で統一して作成し、全体の変容を見ていくことも考えていきたい。

#### (2) 組織的なあいさつ運動

##### ① ねらい

自分から進んで明るくあいさつできる児童を育成する。

##### ア 実践Ⅰ 「JRC 委員会・生徒指導部・PTA によるあいさつ運動」

大多数の児童の通学路となっている学校のフェンスに「あいさつ運動実施中」横断幕を付け、学校・地域をあげて気持ちよいあいさつを交わそうという運動を進めている。



朝だけではなく、下校時にもボランティアで下校指導をして下さっている地域の方などにも進んであいさつができるようにしている。

##### イ 実践Ⅱ 「なかよしペア学年あいさつ運動」

一昨年までは、代表委員が JRC 委員と共に看板を持ってあいさつ運動に参加し、「おはよう」の声掛けをした。また、昨年は、「あいさつ頑張りカード」を作成し、あいさつがよくできたクラスを紹介してクラスに賞状を渡した。

今年度は、中・低学年の意識を高めようと、なかよしグループのペアクラスによるあいさつ運動を実施することにした。

##### ⑦ 実施方法

- ・登校後、なかよしグループのペアクラス（ペア 1-6年、2-4年、3-5年）が順に校門に並び、あいさつ運動に取り組む。1巡後反省会を行い、2週間ほど様子を見た後で再度あいさつ運動に取り組む。



「えがおであいさつ川小っ子」の看板を持って



「4年生もリーダー。2年生と一緒に」

##### ⑧ 成果と反省

○低中学年を含め、全校で一定期間あいさつ運動に取り組んだことで、あいさつを返

## 【体力部会】

### 1 具体例の概要

近年、児童生徒の体力低下が叫ばれている。川越市内の各小中学校においても、体力向上を目指す取組が進められ、改善の兆しを見せ始めているところもある。

しかし、新体力テストの結果を見ると、多くの種目で全国平均や県平均を下回っている状況である。

教育に関する3つの達成目標推進委員会体力部会では、現在の授業での取組だけではなく、休み時間や放課後の時間などに、児童生徒が自主的に運動をする、運動の生活化をねらった取組が大切であると考えた。

そこで、運動場の遊具を活用し、児童生徒が自主的に遊具に親しむ中で、握力を向上させる取組の具体例と、休み時間や放課後の短い時間を使ってできる、逆上がり教室の例を示すこととした。

### 2 実践例

#### (1) 仙波小

##### ① 実践内容

握力等の筋力不足は本校の課題である。ものを強く握ったり、自分の体重を腕で支えたりするような動きが日常生活や遊びの中で少ないことが原因の一つである。そこで、校庭の遊具を活用し、児童が自主的に遊具に親しむ中で握力等の筋力を高められるように、「仙波小わんぱくチャレンジ」を行った。

#### 【仙波小わんぱくチャレンジの内容】

校庭にある各遊具でできる技を技表にまとめ、得点化を行う。学年によって総得点の目標を定め、達成した児童には認定証を渡す。1か月（11/21～12/22）という期間を定め、児童が飽きずに集中して取り組めるようにした。また、技に取り組む際には必ず友達と一緒にやるようにさせるなど仲間と関わる場面を意図的に作るとともに、教え合いの態度を身につけることもねらった。



### 全校児童に配布した技表カード

300技をクリアせよ！

仙波小わんぱくチャレンジ  
仙波小の遊具をせいぜいしよう！

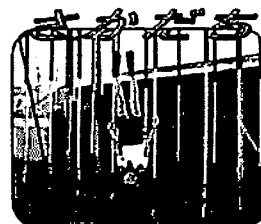
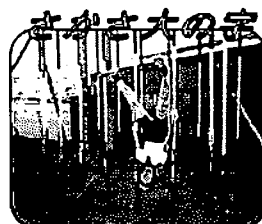
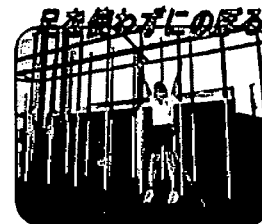
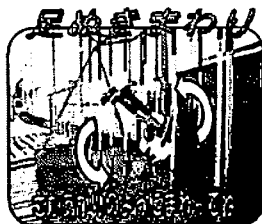
年 組 名 前

学年	組	名前	0
1年	A	1A001	0
		1A002	0
		1A003	0
		1A004	0
		1A005	0
	B	1B001	0
		1B002	0
		1B003	0
		1B004	0
		1B005	0
2年	A	2A001	0
		2A002	0
		2A003	0
		2A004	0
		2A005	0
	B	2B001	0
		2B002	0
		2B003	0
		2B004	0
		2B005	0
3年	A	3A001	0
		3A002	0
		3A003	0
		3A004	0
		3A005	0
	B	3B001	0
		3B002	0
		3B003	0
		3B004	0
		3B005	0
4年	A	4A001	0
		4A002	0
		4A003	0
		4A004	0
		4A005	0
	B	4B001	0
		4B002	0
		4B003	0
		4B004	0
		4B005	0
5年	A	5A001	0
		5A002	0
		5A003	0
		5A004	0
		5A005	0
	B	5B001	0
		5B002	0
		5B003	0
		5B004	0
		5B005	0
6年	A	6A001	0
		6A002	0
		6A003	0
		6A004	0
		6A005	0
	B	6B001	0
		6B002	0
		6B003	0
		6B004	0
		6B005	0

※1～2年生は15、3、4年生は18、5～6年生は22回をクリアしたら認定証がもらえる。  
※各学年で300回クリアすると、認定証がもらえる。

# 教室掲示の資料

仙波小わんぱくチャレンジ特表  
～仙波小の遊具をせいはいしよう～

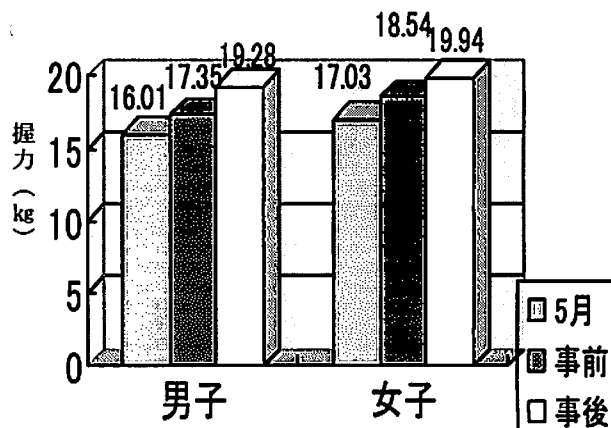


ろくほく  
で何秒ぶ  
らさがら  
ることが  
できるか  
な？

のぼり棒  
で何秒で  
頂上にタ  
ッチする  
ことがで  
きるかな？



仙波小わんぱくチャレンジ前と後の握力  
平均値の変容(5年生)



## ② 成果と課題

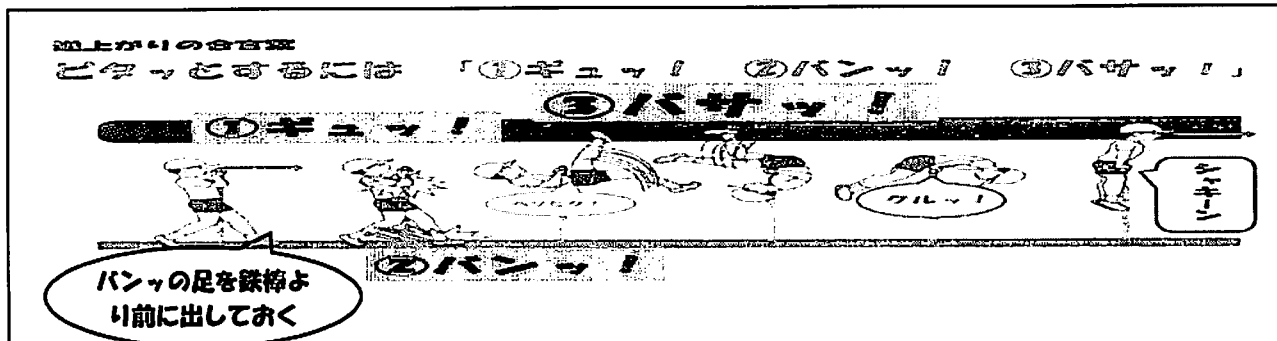
5年生(男子83名、女子71名)で事前と事後の握力平均値を比較したところ、男女ともに1kg以上の伸びが見られた。うんていや鉄棒など自分の体重を腕で支える動きの入った遊びを継続的に行うだけで、筋力の向上を図ることができるのである。しかし、短期的な取組ということは結果も一時的なものでもある。様々な取組を考案し、児童が飽きないように一年間継続的に取り組めるようにすることが課題である。

(2) 霞ヶ関小

①実践内容

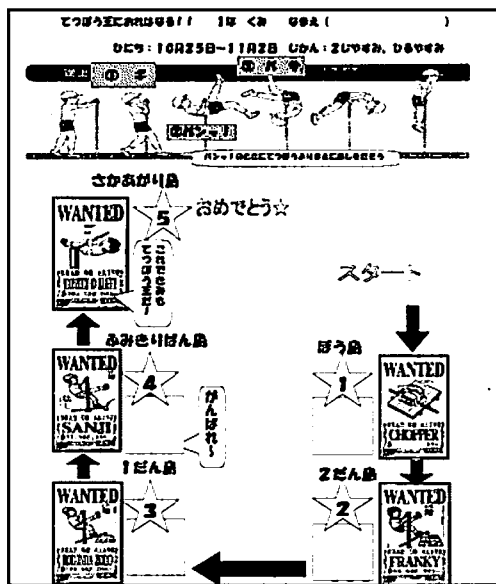
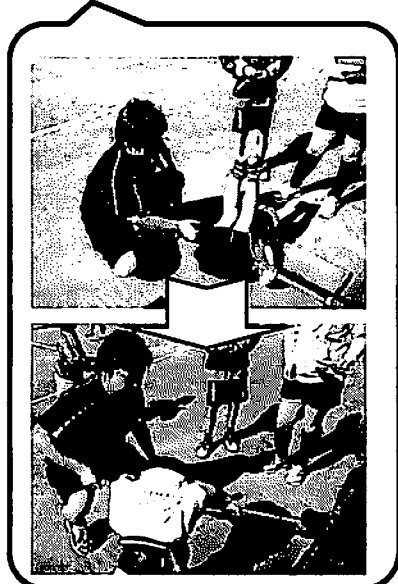
霞ヶ関小学校では1年生を対象に、10月25日～11月2日の計7日間、業間休みと昼休みの時間を使って逆上がり教室「逆上がり王にオレはなる！」を実施した。運動委員会の児童や体育部、教務部の教師が補助に回り、1人でも多くの1年生が逆上りができるように支援した。

○逆上がり技能ポイントを示し、教師が共通理解のもと、指導にあたった。



- ・「ギュー！」：脇をしめて肘をまげる。腕が伸びきらないようにする。  
この段階で、地面を蹴る足（パンツ）を鉄棒より前に出しておく。
- ・「バン！」：地面を強くける。ける足は鉄棒より前に出しておく。
- ・「バサッ！」：振り上げ足を上に力強く振り上げる。  
→この3ポイントを意識することによってへそが鉄棒に「ピタッ」となるようにする。

○活動の場：レベル1から順に取り組みせる。



②成果

今回の逆上がり教室によって、18名もの1年生が初めて逆上がりができるようになった。あと少しできそうな児童も10名ほどいる。限られた期間ではあったが、多くの教師が補助につけたことにより、これだけの成果を挙げられたと考える。

## 小学校外国語活動研究委員会

### 1 研究の概要

#### (1) 目的

平成23年度から全面実施となった外国語（英語）活動について、小中連携の英語教育も踏まえ、2年間の移行期間に外国語（英語）活動に取り組んだ児童生徒に意識調査を実施し、川越市の外国語（英語）活動の成果と課題を追究する。

#### (2) 研究の経緯

平成20年3月に新学習指導要領が告示され、平成23年度から小学校第5・6学年で週1時間、年間35時間外国語（英語）活動が全面実施となる。

川越市では、平成21年度の移行期間から、第5・6学年で週1時間英語活動を実施してきた。

平成20年度には本委員会を立ち上げ、「英語ノート（試作版）」に準拠した年間指導計画と1単位時間の指導案を作成し、当初の英語活動の円滑な導入を図った。

平成21年度は、試作版の検討を重ね、『英語ノート』を活用した外国語（英語）活動年間指導計画及び1単位時間の指導案綴り1・2を作成し、各小・中学校に配布し、授業に活用できるようにした。

平成22年度は、次年度から全面実施となる外国語（英語）活動を踏まえ、その評価について検討し、評価の観点と評価規準を作成した。各小学校に配布し、活用を図った。また、平成23年度に過去2年間の移行期間に外国語（英語）活動に取り組んだ児童・生徒を対象とした意識調査を実施するために、調査内容を検討し予備調査を行った。予備調査では、調査対象となった母集団が小さかったが、外国語（英語）活動や英語科授業に対する児童・生徒の大まかな特徴を捉えることができた。

#### (3) 本年度の研究内容

本年度の調査では、調査対象を拡大し、結果を細かく分析し、外国語（英語）活動の成果と課題や中学校英語科授業との連携について研究した。（詳細は「小学校外国語活動研究委員会研究冊子」に掲載）

#### (4) 研究実績

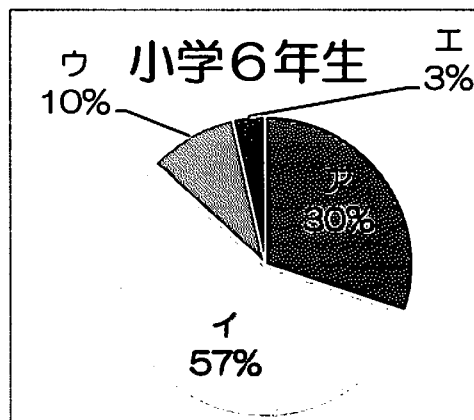
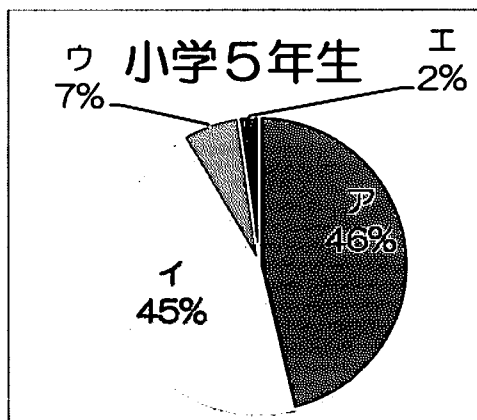
期 日	場 所	主 な 内 容
平成23年7月12日(火)	教育センター	○委嘱書交付 ○趣旨説明 ○役割分担と今後の予定
8月29日(月)	教育センター	○データの集計・分析の報告 ○部会ごとの協議
11月25日(金)	教育センター	○分析結果の報告 ○次回までの課題確認
平成24年1月13日(金)	教育センター	○原稿の最終確認

## 2 調査結果（小学校のみ掲載）

### 平成23年度「英語活動」意識調査 小学校

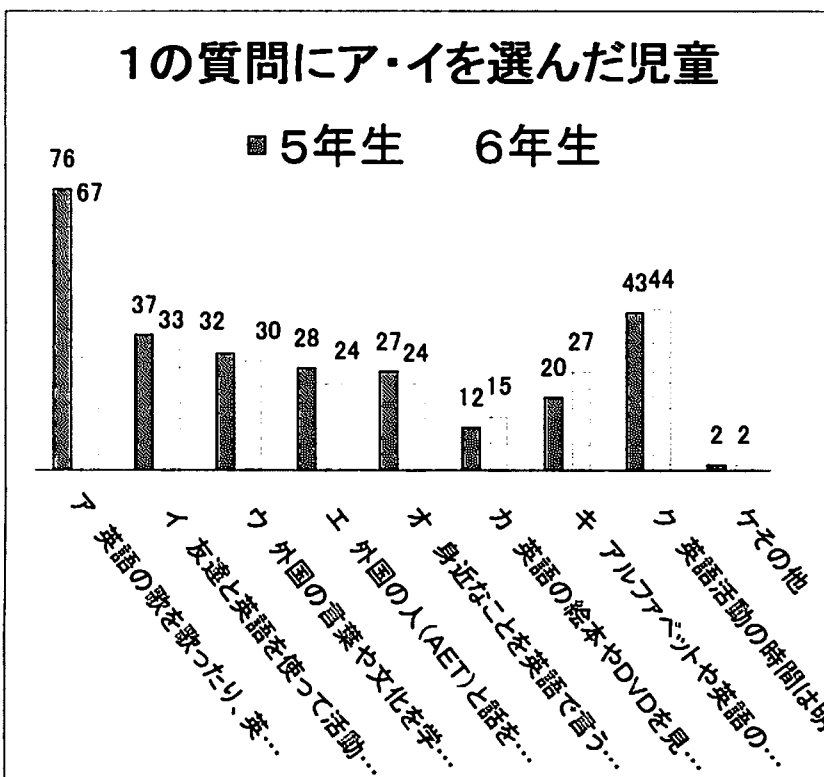
1 小学校の「英語活動」は楽しいですか。記号に○をつけてください。

ア とても楽しい イ 楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない



2 「1」で答えた理由を下の中からいくつでも選んで、記号に○をつけてください。

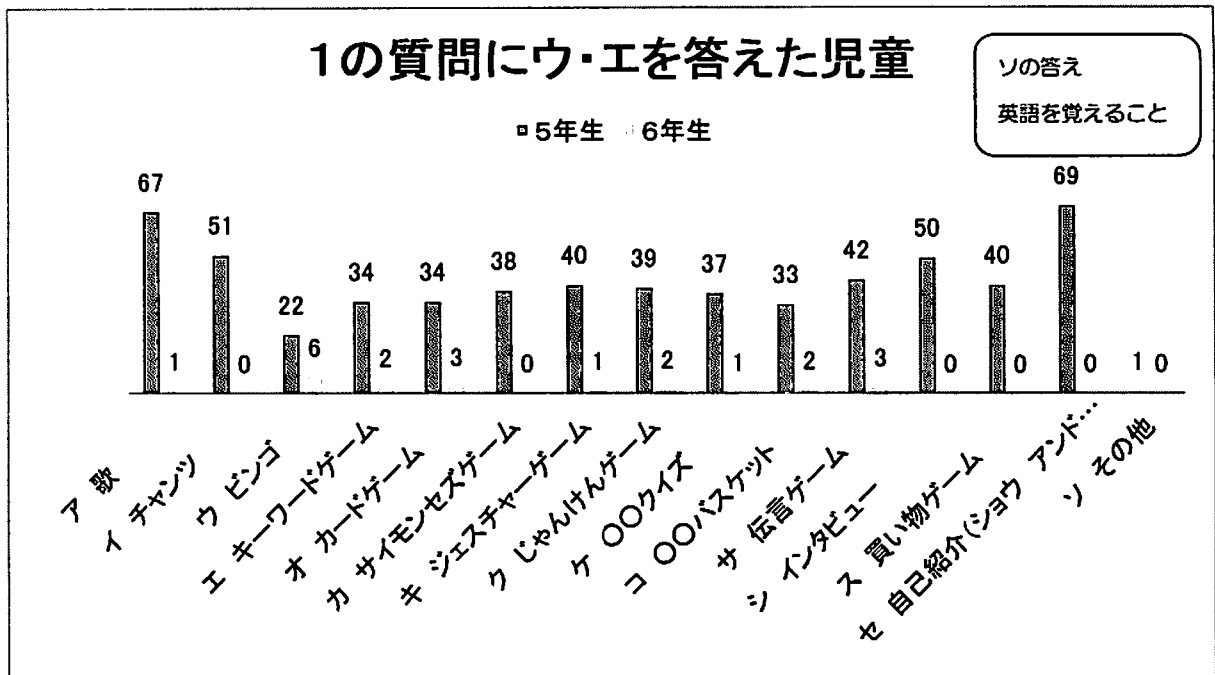
ア 英語の歌を歌ったり、英語のゲームをしたりするから	カ 英語の絵本やDVDを見聞きするから
イ 友達と英語を使って活動するから	キ アルファベットや英語の単語を発音するから
ウ 外国の言葉や文化を学ぶから	ク 英語活動の時間は明るい雰囲気だから
エ 外国人(AET)と話をしたり、交流したりするから	ケ その他( )
オ 身近なことを英語で言う活動があるから	



#### ケの理由

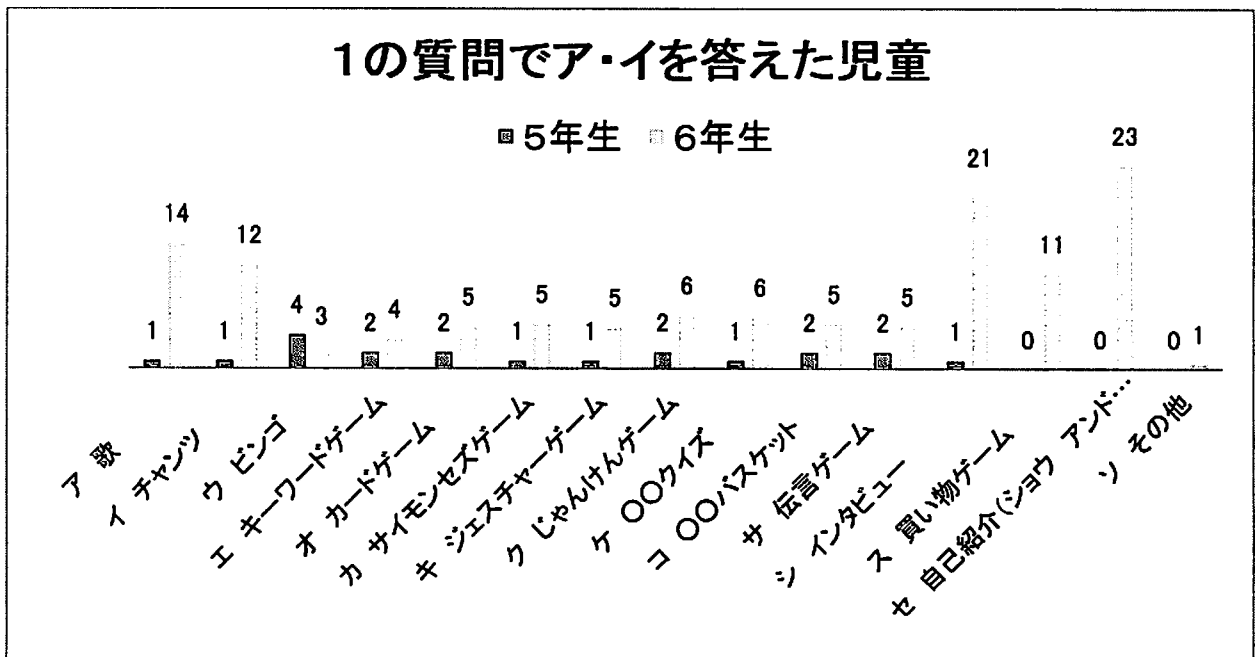
- ・先生がおもしろい
- ・数字をやるから
- ・すらすら言えるから
- ・分かるから
- ・英語を話すのが好きだから
- ・塾でやっているから
- ・英語を話すのが好きだから
- ・英語が言えると楽しい
- ・あまり頭を使わずに済むから
- ・将来外国に行ったら役に立つから
- ・楽しく遊んでいるだけなのに英語が覚えられるから
- ・楽しくAETやみんなと英語を覚えられるから
- ・ピンゴを英語でできるから
- ・簡単だから





4 小学校の英語活動で「楽しくない」「好きでない」と思う活動は何ですか。いくつでも選んで、記号に○をつけてください。

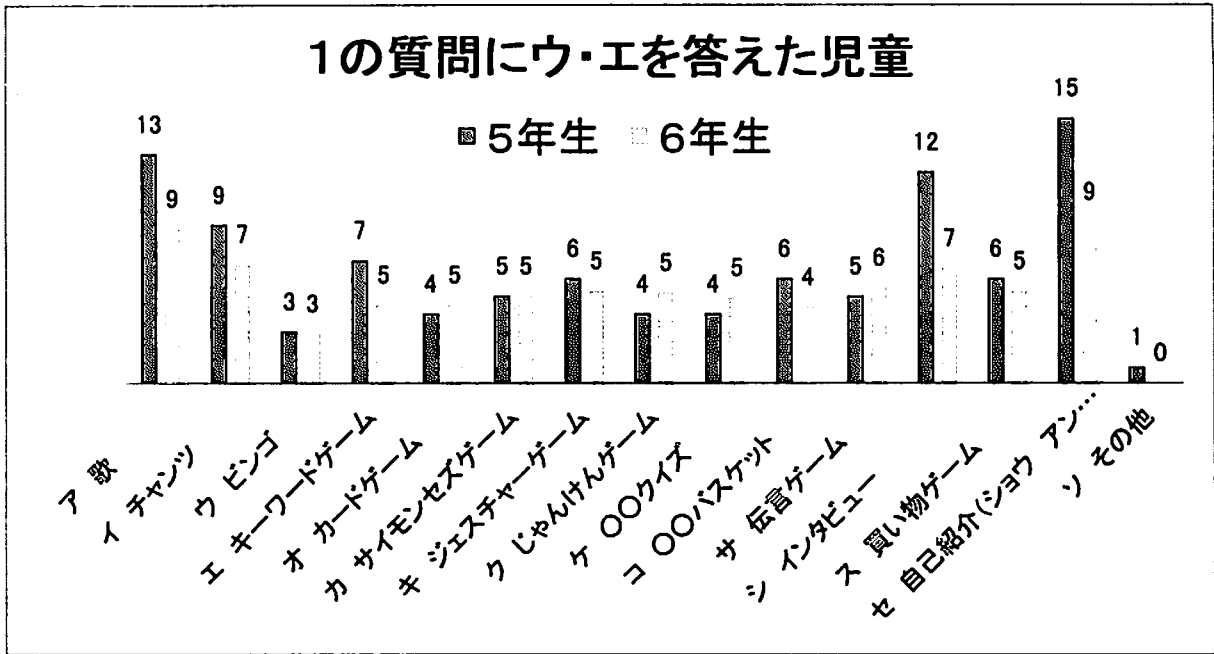
- |            |             |                     |            |
|------------|-------------|---------------------|------------|
| ア 歌        | イ チャンツ      | ウ ビンゴ               | エ キーワードゲーム |
| オ カードゲーム   | カ サイモンセスゲーム | キ ジェスチャーゲーム         |            |
| ク じゃんけんゲーム | ケ OOクイズ     | コ OOバスケット           | サ 伝言ゲーム    |
| シ インタビュー   | ス 買い物ゲーム    | セ 自己紹介 (ショウ アンド テル) | ソ          |
| その他 (      |             |                     | )          |



- ソの理由

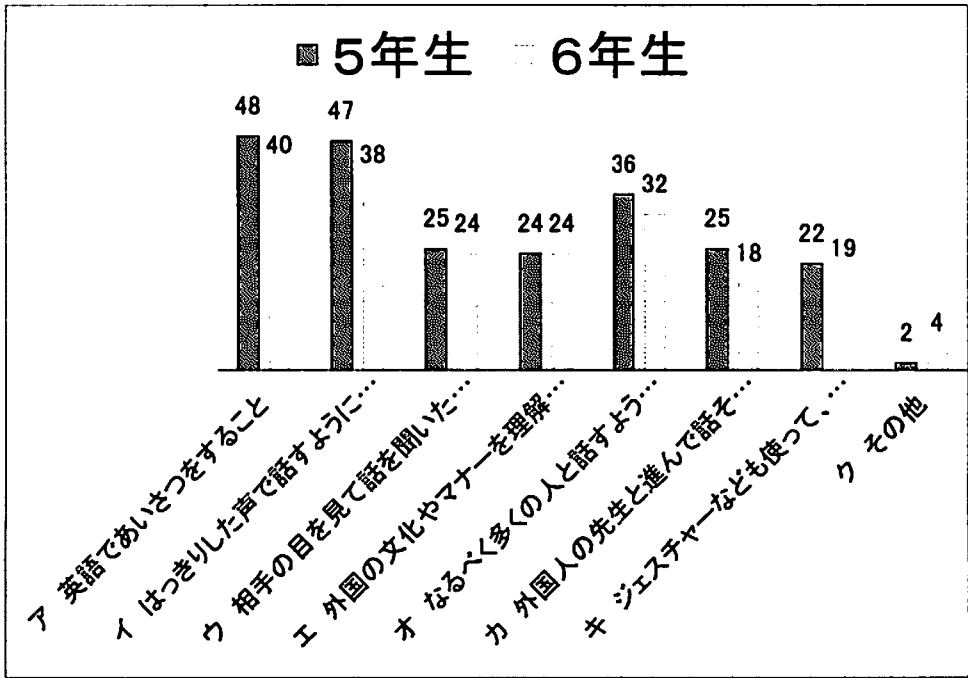
  - ・数字を言うこと
  - ・消しゴム取りゲーム

# 1の質問にウ・エを答えた児童



5 小学校の英語活動で、がんばって取り組んでいることはどんなことですか。いくつでも選んで、記号に○をつけてください。

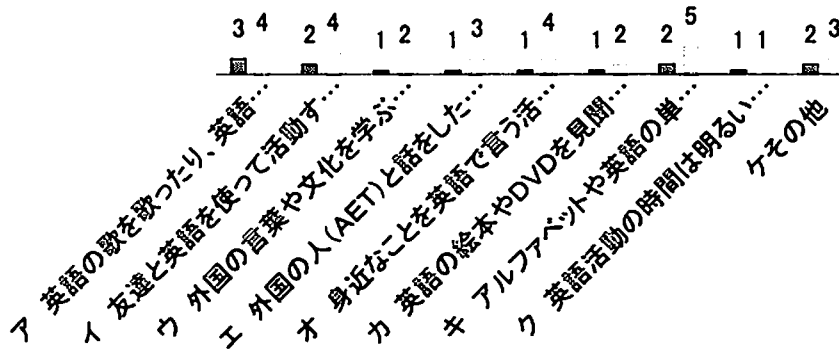
- ア 英語であいさつをすること
- イ はっきりした声で話すようにすること
- ウ 相手の目を見て話を聞いたり、話をしたりするようにすること
- エ 外国の文化やマナーを理解するようにすること
- オ なるべく多くの人と話すようにすること
- カ 外国人の先生と進んで話そうとすること
- キ ジェスチャーなども使って、自分の情報を伝えようとする
- ク その他 ( )



- クの理由
- ・外国人となかよくすること
  - ・なるべく多くの単語を覚えること
  - ・1~20の数字
  - ・先生がどんな意味を言っているか理解すること

# 1の質問にウ・エを選んだ児童

■ 5年生 □ 6年生



## ケの理由

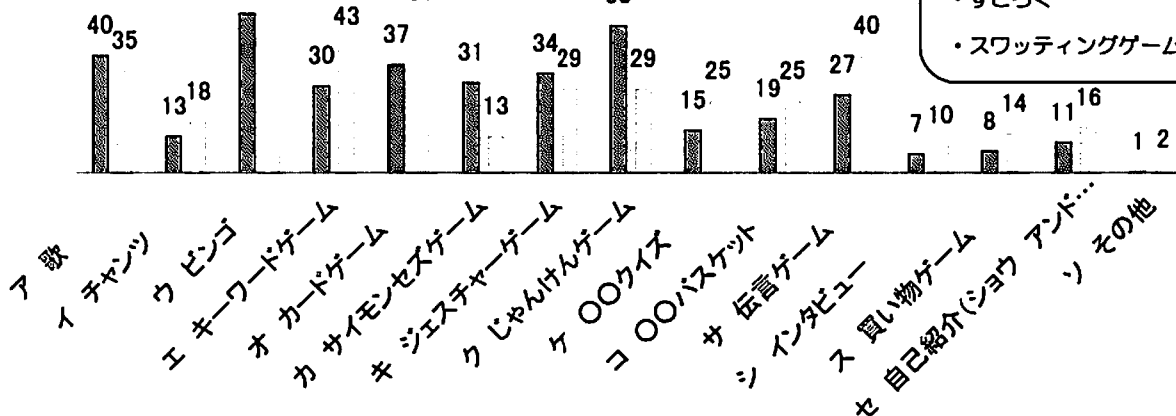
- ・分からないから
- ・難しい
- ・分からない
- ・同じと事ばかりやるから
- ・簡単すぎる
- ・あまり英語は好きではないから
- ・騒いでやるから
- ・話せないから
- ・言いづらい
- ・ローマ字や英語が書けない

3 小学校の英語活動で「とても楽しい」「楽しい」と思う活動は何ですか。いくつでも選んで、記号に○をつけてください。

- ア 歌      イ チャンツ      ウ ピンゴ      エ キーワードゲーム  
 オ カードゲーム      カ サイモンセスゲーム      キ ジェスチャーゲーム  
 ク じゃんけんゲーム      ケ ○○クイズ      コ ○○バスケット      サ 伝言ゲーム  
 シ インタビュー      ス 買い物ゲーム      セ 自己紹介(ショウ アンド テル) ソ  
 その他(      )

# 1の質問にア・イを答えた児童

■ 5年生 □ 6年生



## ソの答え

- ・スネークアンドラダーゲーム
- ・すごろく
- ・スワッピングゲーム

## 委員名簿

(職名は平成24年3月現在)

### 情報教育推進委員会

委員長  
芳野中学校 校長 小熊 利明  
副委員長  
高階南小学校 教頭 山田 勇  
委員  
新宿小学校 教諭 島田 亮  
泉小学校 主幹教諭 肥留間 宏  
高階北小学校 教諭 吉野 浩章  
霞ヶ関小学校 教諭 寺内 和広  
城南中学校 教諭 森田 眞澄  
大東中学校 教諭 安部 美仁

### 学力調査研究委員会

委員長  
大東西中学校 校長 福島 正美  
副委員長  
武蔵野小学校 教頭 細谷 敏人  
(国語部会)  
川越第一小学校 教諭 関 茜  
南古谷小学校 教諭 矢澤 美千代  
大東西中学校 教諭 広沢 由幸  
(社会科部会)  
霞ヶ関小学校 主幹教諭 久津間 明  
霞ヶ関東中学校 教諭 薄墨 和彦  
(算数・数学部会)  
大塚小学校 教諭 戸田 克  
砂中学校 教諭 岡下 洋子  
霞ヶ関西中学校 教諭 谷ヶ崎 章恵  
(理科部会)  
高階北小学校 教諭 小林 弘幸  
川越第一中学校 教諭 井藤 幸子  
(英語部会)  
城南中学校 教諭 竹内 久哲  
南古谷中学校 教諭 小嶋 邦明

### 川越市教育委員会(事務局)

学校教育部副部長兼教育指導課長 新保 正俊  
教育指導課副課長 内野 博紀  
教育指導課主査 竹内 一博  
教育指導課指導主事 加賀谷徳之  
教育指導課指導主事 長澤 和明  
教育指導課指導主事 黒須 淳一  
教育指導課指導主事 岩崎 佳澄  
教育指導課指導主事 粕谷 英之  
教育センター分室(1階)主査 飯島 正康  
教育センター分室(1階)指導主事 鈴木 友子  
教育センター分室(1階)指導主事 原 功

### 教育に関する3つの達成目標推進研究委員会

委員長  
高階西中小学校 校長 駒井 忠幸  
副委員長  
上戸小学校 教頭 日出間 均  
(読む・書く部会)  
霞ヶ関北小学校 教諭 和田 哲  
山田小学校 教諭 岩井 奈美枝  
川越第一中学校 教諭 濱田 彰博  
(計算部会)  
高階小学校 教諭 相宮 匡岐  
高階西小学校 教諭 肥留間 智子  
霞ヶ関東中学校 教諭 垣堺 宏子  
(規律ある態度部会)  
川越小学校 教諭 加藤 法子  
大東東小学校 主幹教諭 小島 仁  
東中学校 教諭 浅野 聡  
(体力部会)  
仙波小学校 教諭 伊藤 直仁  
霞ヶ関小学校 教諭 岡本 顕二  
富士見中学校 教諭 渋谷 正訓

### 小学校外国語活動研究委員会

委員長  
霞ヶ関南小学校 校長 石川 辰夫  
副委員長  
古谷小学校 教頭 吉田 哲夫  
委員  
川越第一小学校 教諭 千島 薫  
仙波小学校 教諭 宮野 裕子  
古谷小学校 教諭 山内 陽子  
高階北小学校 教諭 小松崎 直美  
大東西小学校 教諭 西堀 心  
霞ヶ関東小学校 教諭 城戸崎 直美  
高階中学校 教諭 中島 真理子  
霞ヶ関西中学校 教諭 齋藤 淳一

学校教育部参事兼教育センター所長 金子 正樹  
教育センター副所長 大久根 正  
教育センター主査 新井啓太郎  
教育センター指導主事 齊木 眞一  
教育センター指導主事 神田 郁夫  
教育センター指導主事 江原 勝義  
教育センター指導主事 山崎 紀子  
教育センター指導主事 澤田 里実  
教育センター指導主事 阿形 寿和  
教育センター指導主事 大澤由美子  
教育センター指導主事 原田 正則